

手話を活用した学習教材の収集・整理およびプラットフォームの在り方に関する 報告書

みずほリサーチ&テクノロジーズ

デジタルコンサルティング部

2026年3月31日

ともに挑む。ともに実る。



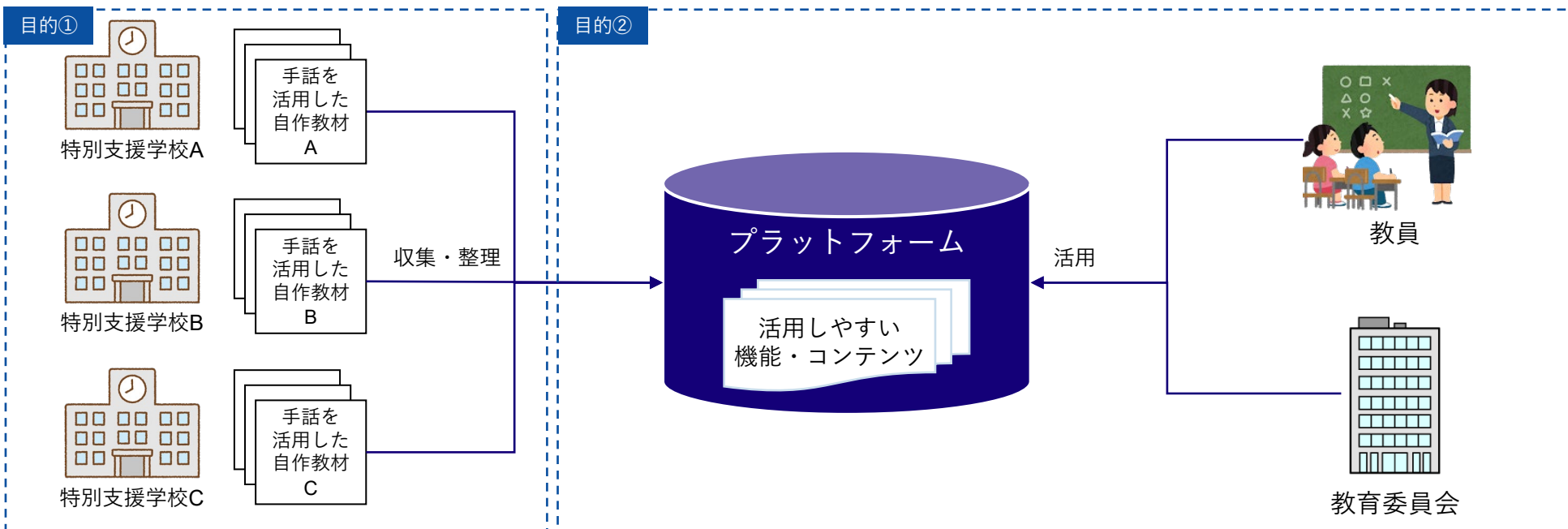
1. 調査方針	P.2
1.1 調査の背景・目的	P.3
1.2 実施事項	P.4
2. 調査内容	P.5
2.1 文献調査	P.6
2.2 アンケート調査	P.14
3. 調査まとめ（プラットフォームの在り方）	P.29
3.1 プラットフォームの在り方を検討する上での観点	P.30
3.2 機能に関する要件	P.32
3.3 コンテンツに関する要件	P.37
3.4 プラットフォームの在り方の提案	P.39
Appendix（教材の整理結果 詳細）	P.43

1. 調査方針

- 本事業の背景・目的を理解した上で、作業を実施。

背景	<ul style="list-style-type: none"> ● 聴覚障害教育については、人工内耳装用児の増加や重複障害学級在籍率、大学進学率の上昇等、特別支援学校に在籍する幼児児童生徒の障害の状態等が多様化しており、個々の障害の状態等に応じた指導を一層充実していく必要がある ● また、2025年に「東京2025デフリンピック」が開催されることを契機として、手話の活用を含む聴覚障害教育の充実や聴覚障害に関する理解啓発の一層の推進を図る必要がある
----	--

目的	<ol style="list-style-type: none"> ① 全国の特別支援学校（聴覚障害）で作成・活用されている手話を用いた学習教材の実態を把握し、それらを収集・整理すること ② 聴覚障害教育の一層の充実を図るため、全国の教育現場（教員、教育委員会等）で活用しやすい機能・コンテンツを備えたプラットフォームの在り方を検討すること
----	---



- 文献調査やアンケート調査等を基に、プラットフォームの在り方の検討を行った。

項目	実施事項	9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
		前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
調査方針	調査方針の検討	→													
文献調査	既存のプラットフォームの調査	→													
	手話教材に関する過去の調査研究の分析	→													
アンケート調査	送付先・送付方法の検討			→											
	設問項目の設計			→											
	集計							→							
個人情報の取り扱いや知的財産権に係る処理等に関する調査	個人情報の取り扱いや知的財産権に係る処理等に関する調査											→			
プラットフォーム	プラットフォームの在り方の検討											→			
報告書	報告書作成													→	

2. 調査内容

- 文献調査においては、プラットフォームの在り方に資する情報を得るために、既存のプラットフォームや既存の関連する調査結果を参照する。

目的

- プラットフォームの在り方を検討するにあたり、想定利用者のユースケース等の情報を把握すること

方針

- 手話教材の情報をまとめた既存のプラットフォームを調査し、それぞれの特徴から、本事業のプラットフォームの在り方に資する情報を得る
- 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所（以降「特総研」という。）が過去に実施した「手話教材に関する調査結果」を基に、プラットフォームに対するニーズ等の情報を得る

- 手話教材がまとめられた既存のプラットフォームは、4つ確認できた。
- 次頁以降に、それぞれのプラットフォームの特徴を整理。

項番	プラットフォーム名称	作成主体
1	支援教材ポータル	特総研
2	インクルーシブ教育システム構築支援データベース	特総研
3	特別支援教育 教材・指導法データベース	筑波大学附属特別支援学校5校と 特別支援教育研究センター
4	クローバープロジェクト	匿名の特別支援学校の教員が運営

- 支援教材ポータル（特総研作成）の特徴

- ▶ 特別支援教育用の教材、教具、ICT活用事例、自作教材等を障害種別や教科等で検索可能
- ▶ 非常に多くの量の教材をカバー

支援教材ポータル

特別支援教育教材ポータルサイト



独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

本サイトについて ▾

詳細検索 ▾

リンク集

実践事例

検索はキーワードを入力してください。
Q

学びの場	学校段階	主な対象障害	教科等	特性・ニーズ
<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校	<input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> 学習障害 <input type="checkbox"/> 注意欠陥多動性障害	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会・地理歴史・公民 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 英語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術・芸術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術 <input type="checkbox"/> 家庭 <input type="checkbox"/> 職業 <input type="checkbox"/> 情報 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習(探究)の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 全般	<input type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 動作と姿勢 <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 感覚の調整 <input type="checkbox"/> 不注意・多動性・衝動性 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> 知覚・認知 <input type="checkbox"/> 遠隔学習

Q検索

● インクルーシブ教育システム構築支援データベース（特総研作成）の特徴

➤ インクルーシブ教育に関する全国の教育実践事例、合理的配慮Q&A、関連資料を幅広く収集・提供

インクルーシブ教育システム構築支援学校施設データベース 国立教育政策研究所
NIER National Institute for Educational Policy Research

事例を閲覧・活用される際の留意事項 | 報告書 | 国立教育政策研究所 | 文教施設研究センター | 国立特別支援教育総合研究所 (インクルDB) | その他関連情報 (文部科学省HP)

現在のページ: インクルーシブ教育システム構築支援学校施設データベース (インクル学校施設DB)

インクルーシブ教育システム構築支援学校施設データベース (インクル学校施設DB)

検索システムの選択方法について 検索する

【I】 対象児童生徒等の障害種

全て選択 全て解除

- 視覚障害
- 聴覚障害
- 知的障害
- 肢体不自由
- 病弱・身体虚弱
- 言語障害
- 自閉症
- 情緒障害
- LD(学習障害)
- ADHD(注意欠陥多動性障害)

すべてを含む
 いずれかを含む

【II】 対象児童生徒等の障害の程度 (学校教育法施行令第22条の3)

- 該当
- 非該当

【III】 対象児童生徒等の在籍状況等

全て選択 全て解除

- 小学校 (通常の学級)
- 小学校 (通常の学級・通級による指導)
- 小学校 (特別支援学級)
- 中学校 (通常の学級)
- 中学校 (通常の学級・通級による指導)
- 中学校 (特別支援学級)
- 高等学校
- 特別支援学校 (小学部)
- 特別支援学校 (中学部)
- 特別支援学校 (高等部)
- 幼稚園
- 保育園

【IV】 対象児童生徒等の学年

全て選択 全て解除

- 年少
- 年中
- 年長
- 小1
- 小2
- 小3
- 小4
- 小5
- 小6
- 中1
- 中2
- 中3
- 高1
- 高2
- 高3

【V】 基礎的環境整備の観点

- 施設・設備の確保

【VI】 合理的配慮の観点

全て選択 全て解除

- 校内環境のバリアフリー化
- 発達・障害等の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・整備の配慮
- 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

【VII】 施設・設備の整備状況等

全て選択 全て解除

- スロープ・段差解消
- エレベーター
- 階段昇降機
- 手すり
- 誘導ブロック・点字
- トイレ
- 洗面所
- シャワー室
- 空調設備等
- 二重窓・二重扉等
- 出入口
- クールダウンスペース
- 教室配置
- 諸室確保 (クールダウンスペース除く)

- 間仕切り・つい立て等
- じゅうたん・タイルカーペット
- カーテン・ブラインド
- サイン・掲示
- 机・椅子
- 緩衝材 (テニスボール)
- ペット
- カメラ・モニター
- 補聴器・補聴システム等
- パソコン・プロジェクター等
- 電子黒板
- タブレット型端末
- 教材
- その他

- 特別支援教育 教材・指導法データベース（筑波大学附属特別支援学校5校と特別支援教育研究センター作成）の特徴
 - ▶ 幼児児童生徒を対象とした教材及び指導法が整理されている
 - ▶ 障害特性に対する配慮点といった項目があり、教材の活用場面が利用者にわかるようになっている

教材検索

※検索語句、障害種別、単元・活用場面を入力/選択すると全てに合致した結果が表示されます

検索語句

障害種別

聴覚障害教育

単元・活用場面

国語

ソート順

検索する

条件をクリア

国語

算数, 数学

理科

社会

音楽

図画工作, 美術

体育, 保健体育

生活

家庭, 技術・家庭

道徳

外国語

情報

特別活動

自立活動

日常生活の指導

遊びの指導

生活単元学習

作業学習

就学前教育

教具・補助具

職業

理療

その他

● クローバープロジェクトの特徴

- ▶ 障害種に関わらず特別支援教育で使えるデジタル教材を提供
- ▶ PowerPointやWord、Excelで作成されたデジタル教材を、国語、算数のもくじ（題材）ごとに整理されている
- ▶ すべての教材をダウンロードでき、利用者が編集可能

特別支援教育で活用できる
教材共有サイト

クローバープロジェクト

About

☆本のデジタル教材を公開

クローバープロジェクトでは、PowerPointやWord、Excelで作成されたデジタル教材を、国語、算数の☆本のもくじ（単元）で整理し、授業等で活用できるように公開します。その他、図工や日常生活指導に活用できる教材などの共有を目的に運営していきます。

クローバープロジェクトで公開されたデジタル教材は、すべてダウンロードができ、子どもたちの好きなこと、ものに応じて編集が可能です。

クローバープロジェクトではすべての人が、作成したあるいは編集し直したデジタル教材の投稿が可能です。

クローバープロジェクトについて

教科・☆別に教材を探す

算数・国語・図工の教材を掲載しています。

算数 ☆

算数 ☆☆

算数 ☆☆☆

国語 ☆

国語 ☆☆

国語 ☆☆☆

図工

使えるかもしれない
視覚支援教材

使えるかもしれない視覚支援教材

- 本プラットフォームの想定利用者のニーズについて、特総研の過去の調査結果を基に洗い出しを行った。
- コンテンツとしては、「写真、動画、絵等の電子データ、問題集やドリルの電子データ、教科書の電子版」のニーズがあり、機能としては「加工して活用する」ニーズがあることが読み取れる。

調査名	「聴覚障害教育における教科指導等の充実に資する教材活用に関する研究～専門性の継承、共有を目指して～」
調査目的	特別支援学校（聴覚障害）の小学部から高等部の教科指導等における教材活用の実態を調査し、学部や教科毎の現状と課題を明らかにすること
調査対象	平成24年度全国特別支援学校実態調査聾学校の部（全国特別支援学校長会）に掲載されている全国の特別支援学校（聴覚障害）の本校及び分校の計100校
調査時期	平成24年9月～平成24年10月
調査内容	<ul style="list-style-type: none">● 記入者の教職経験年数や所属、教育課程等の基本情報、記入者が担当する教科等で用いるコミュニケーション手段、教科等で活用する教材や機器の有無・活用頻度・加工の状況、自作教材の活用状況等● 小学部以上の学部には、学習評価で用いる教材と活用状況等
調査手法	郵送による質問紙調査
調査結果概要	あると良い教材について、電子化された教材を望む回答が多かった。小学部では、写真、動画、絵等の電子データ、中学部では問題集やドリルの電子データ、教科書の電子版等が挙げられたが、いずれも、児童生徒の実態に応じて、加工して活用したいとの記述が多かった。どのような教材であれ、実際に指導する児童生徒の実態に応じて、担当者が手を加えて活用することから、手を加えるための素材が電子化されることへの期待が高い

- コンテンツとしては、「デジタル教材」、「児童生徒の基礎力を評価する教材」のニーズがあり、機能としては「児童の実態に応じて理解を促すことができるよう教員が教材を加工する」ニーズがあることが読み取れる。

調査名	「聴覚障害教育における教科指導等の充実に資する教材活用に関する調査」
調査目的	特別支援学校（聴覚障害）に設置する幼稚部における話し合い活動、小学部から高等部の教科指導等における教材活用の実態を調査し、学部や教科毎の現状と課題を明らかにする
調査対象	平成29年度全国特別支援学校実態調査:特別支援学校（聴覚障害）の部（全国特別支援学校長会）に掲載されている全国の特別支援学校（聴覚障害）の本校及び分校の計95校の幼稚部から高等部に所属する教職経験年数5年以上の教員
調査時期	平成29年8月～平成29年10月
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職経験年数や所属等の基本情報、教育課程、指導人数、担当する教科等で用いるコミュニケーション手段、教科等で活用する教材や機器の有無・活用頻度・加工の状況、自作教材の活用状況等 ・ 小学部以上については、学習評価で用いる教材と活用状況、電子黒板の有無と活用状況等
調査手法	郵送によるアンケート調査（悉皆調査）
調査結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ このような教材があったら良いと思われるものとして、<u>デジタル教材の希望を多くされていることが分かった</u>。小学部では、実際の経験や操作活動を通じて、計算や図形の理解を進めていくわけであるが、中学部、高等部と学年が上がるにつれて、<u>すでに理解した既習の算数・数学の概念や言葉を使って、新しい分野の理解に進むため、児童生徒が基礎力をどれくらい身につけているのかを確実に把握することも重要になってくる</u>ところである。<u>学習評価の検査（意欲・習熟度）の教材を求める意見も上がっている</u>ところは、聴覚特別支援学校の児童生徒の算数・数学の学習に於いて、<u>準じる教育、下学年適用の授業を評価するうえでも重要</u> ・ 外国語の教材の活用状況については、手を加えて活用が35%だった。また手を加えたり自作したりして活用している教材としては、「カード教材」66.0%、「写真」57.0%となっていた。こうした結果から、<u>児童の実態に応じて理解を促すことができるよう教員が教材を工夫している</u>

- アンケート調査においては、教材の内容や自作教材の利用実態等の情報を得るために実施する。

目的

- 全国の特別支援学校（聴覚障害）において、教員が自作している教材の情報を収集・把握すること
- 教材の整理やプラットフォームの在り方を検討するため、教材の内容や自作教材の利用実態を把握すること

方針

- 全国の特別支援学校（聴覚障害）にアンケートを発出するための調整を行う
- 教材の目的や内容、利用方法等を尋ねる設問を検討する
- アンケート調査結果の回収・集計を行う

- 自作教材の情報を収集するため、全国の特別支援学校（聴覚障害）を対象としたアンケートを実施した。

送付対象	全国聾学校長会に加盟する89校
実施方法	調査票（Excel）を用いた調査
実施時期	2025年12月～2026年1月
回収数	64校
設問数	（教材1つの場合）16問 （教材5つの場合）53問
設問項目	<ul style="list-style-type: none">回答者の基本的情報教材の概要引用元・転載元である教材・書籍等の名称

- 設問項目の一覧は下記の通り。

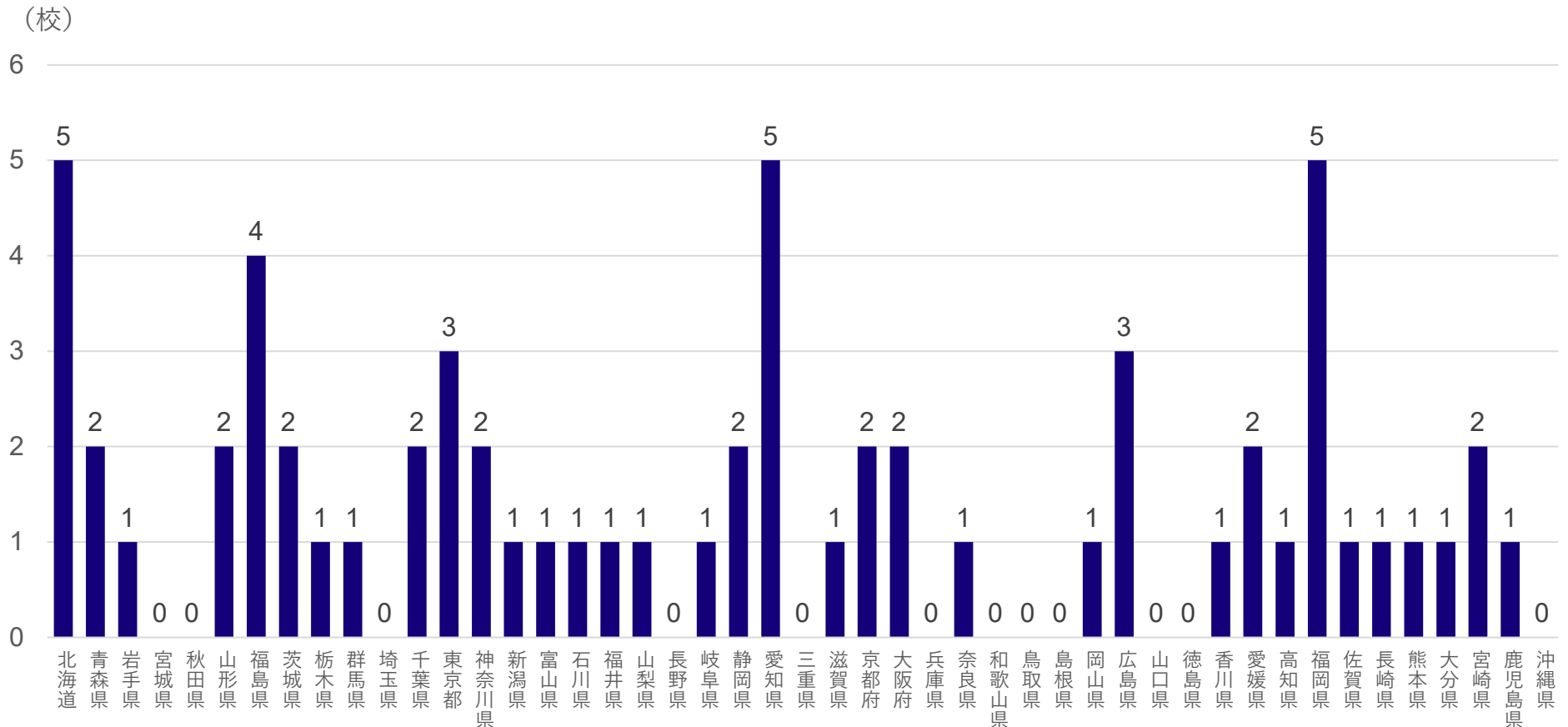
設問番号	設問項目
1	学校名（正式名称）
2	御担当者名
3	連絡先（Email）
4	連絡先（TEL）
5	貴校に設置している学部等を①～⑥よりより該当するもの全てに「○」を選択してください。 ①乳幼児教育相談、②幼稚部、③小学部、④中学部、⑤高等部本科、⑥高等部専攻科
6	貴校では、幼児児童生徒（以下「児童等」という。）の学習内容の理解を目的とした手話を使用した教材や、児童等とその保護者の手話習得を目的とした手話を使用した教材を作成・活用していますか。
7	貴校で作成している手話を使用した教材のうち、本アンケートにてその詳細をご回答いただける教材数（1件～5件）を選択してください。
8	教材の電子データを所有していますか。 （*）電子データとは、PC・タブレット等に保存されているデータ（例. Word、パワーポイント、MP4など）で、メールやファイル送信システムによって送信可能なものを指します。異なる媒体（例.VHSなど）にのみ記録しており、PC・タブレット等では利用や送信ができない場合は「②無」と選択してください。
9	教材の主な目的を選択してください。

設問番号	設問項目
10	教材の主な対象を①～⑧より該当するもの全てに「○」を選択してください。 ①乳幼児教育相談（乳幼児やその保護者を含む）、②幼稚部、③小学部低学年、④小学部中学年、⑤小学部高学年、⑥中学部、⑦高等部本科、⑧高等部専攻科
11	教材を主に活用している教科等を選択してください。 ①国語、②社会・地理歴史・公民、③算数・数学、④理科、⑤生活、⑥英語・外国語活動、⑦音楽、⑧図画工作・美術・芸術、⑨体育・保健体育、⑩技術、⑪家庭、⑫情報、⑬道徳、⑭総合的な学習（探究）の時間、⑮特別活動、⑯自立活動、⑰①～⑱以外の教科等、⑲教科等の指導では活用していない
12	（設問11.において「⑰①～⑱以外の教科等」と回答された方のみご回答ください。） 教材を主に活用している教科等を記入してください。
13	教材を各教科等の指導以外の場面で活用している場合は、その具体的な場면을記入してください。 活用していない場合は「活用していない」と記入してください。
14	教材の概要（教材の内容、ねらい、使用方法等）について、記入してください。

設問番号
1

学校名（正式名称） ※自由記述

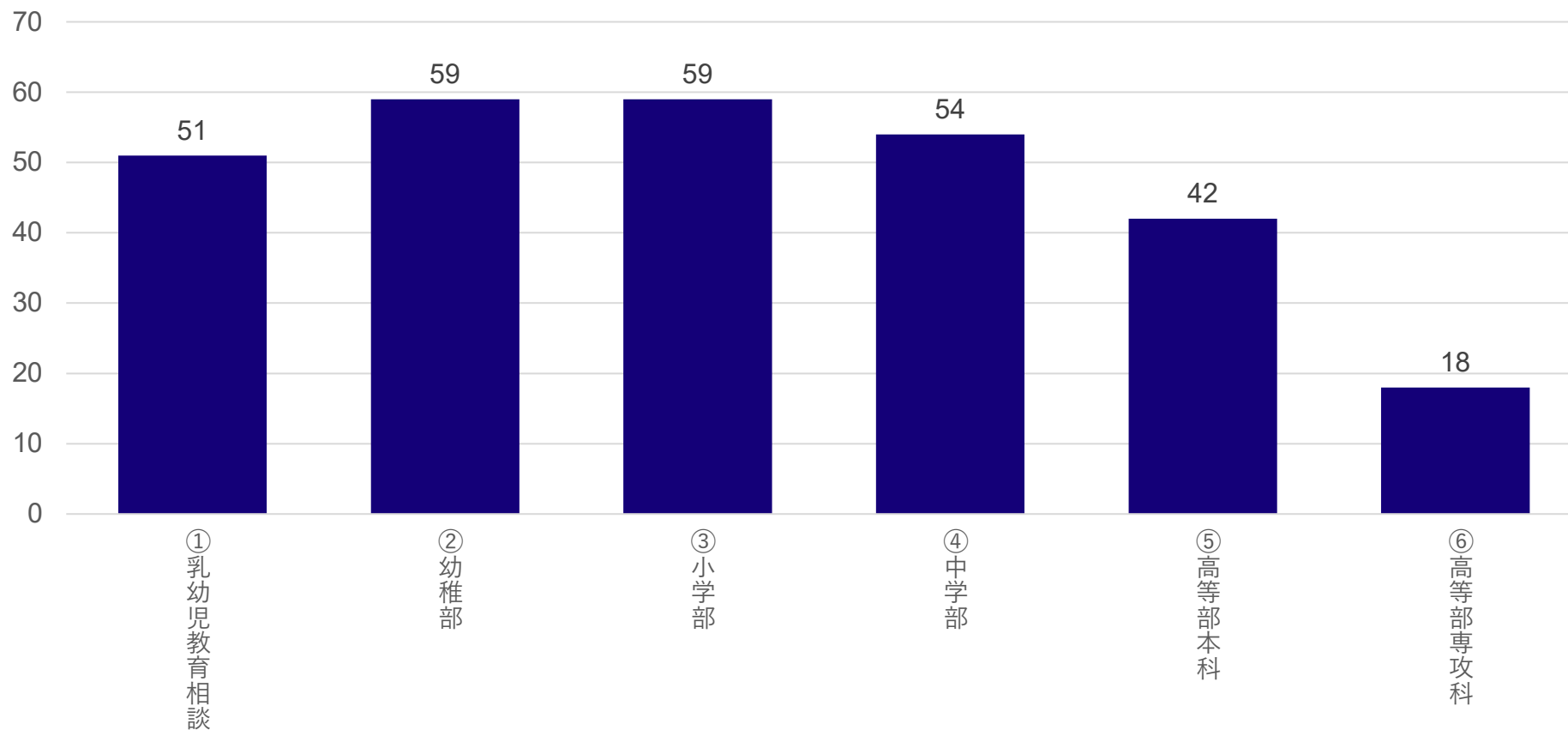
- 特に北海道や愛知県、福岡県から多くの回答（5件）を受領した。



設問番号
5

貴校に設置している学部等を①～⑥より、該当するもの全てに「○」を選択してください。
①乳幼児教育相談、②幼稚部、③小学部、④中学部、⑤高等部本科、⑥高等部専攻科

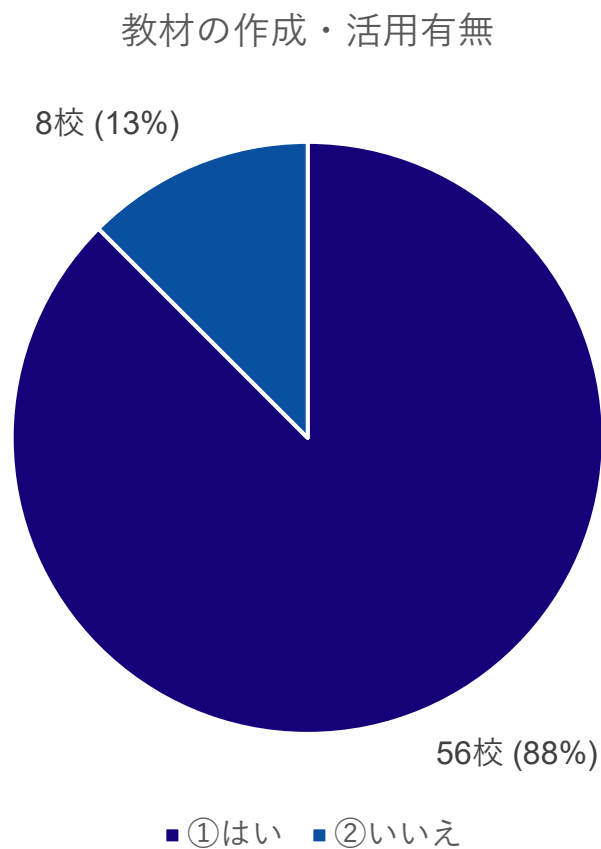
- ①乳幼児教育相談～④中学部を設置している学校は多く、⑤高等部本科、⑥高等部専攻科は比較的少ない。



設問番号
6

貴校では、幼児児童生徒（以下「児童等」という。）の学習内容の理解を目的とした手話を使用した教材や、児童等とその保護者の手話習得を目的とした手話を使用した教材を作成・活用していますか。

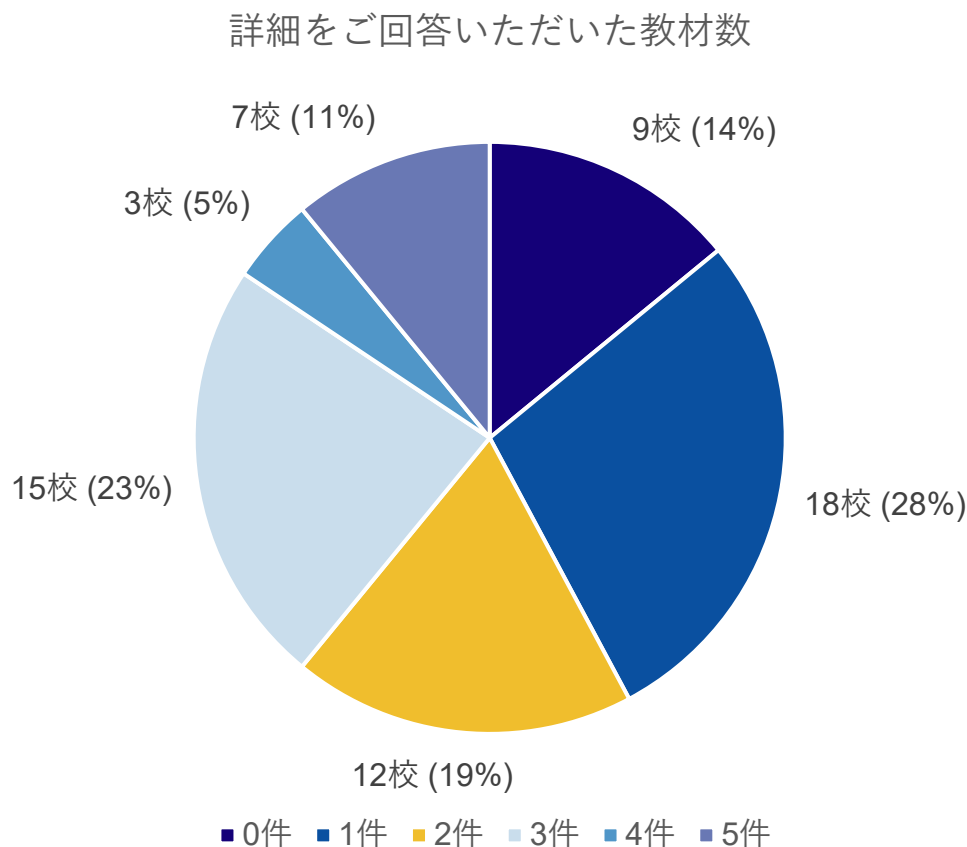
- 多くの学校が手話を使用した教材を作成・活用している。



設問番号
7

貴校で作成している手話を使用した教材のうち、本アンケートにてその詳細をご回答いただける教材数（1件～5件）を選択してください。

- 本アンケートにおいて、児童等の学習内容の理解を目的とした手話を使用した教材や、児童等とその保護者の手話習得を目的とした手話を使用した教材を作成・活用している学校（64件）のうち、詳細をご回答いただいた教材数は134件となった。



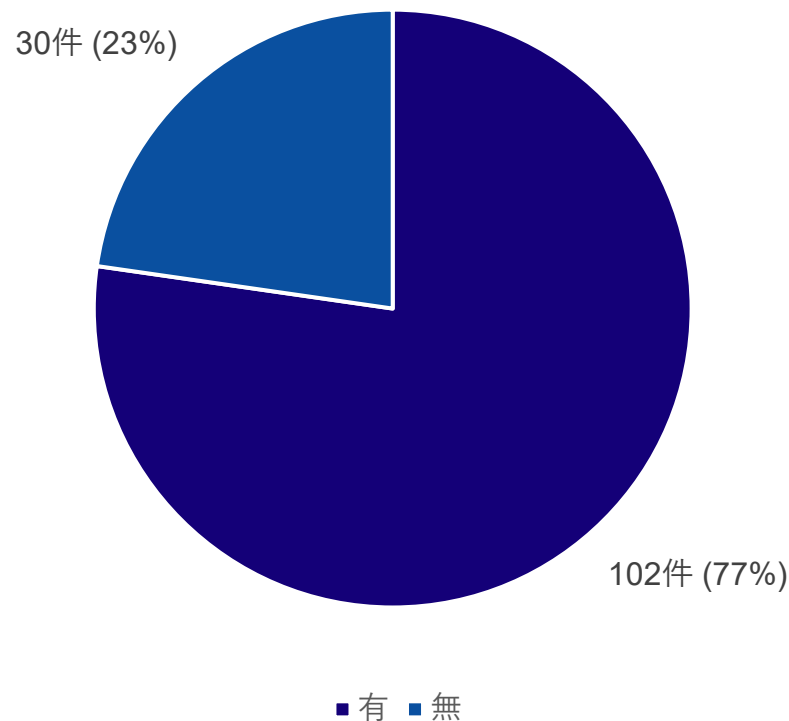
設問番号
8

教材の電子データを所有していますか。

(*) 電子データとは、PC・タブレット等に保存されているデータ（例. Word、パワーポイント、MP4など）で、メールやファイル送信システムによって送信可能なものを指します。異なる媒体（例.VHSなど）にのみ記録しており、PC・タブレット等では利用や送信ができない場合は「②無」と選択してください。

- 設問番号7において詳細をご回答いただいた134件の教材について、電子データの所有有無の状況は「有」が多いものの、「無」も一定数存在。

ご回答いただいた教材（134件）のうち、電子データの所有有無

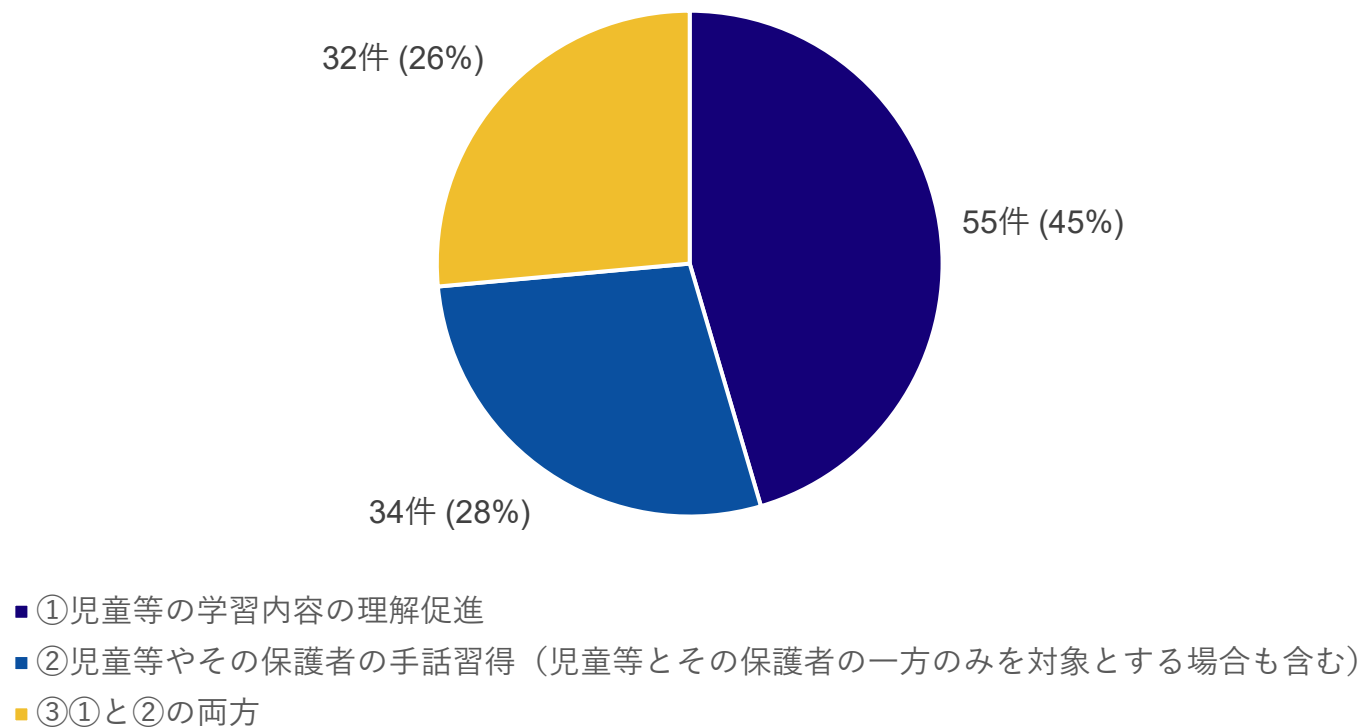


設問番号
9

教材の主な目的を選択してください。

- 教材の主な目的は「児童等の学習内容の理解促進」が半分を占める一方で、児童等やその保護者の手話習得を目的とする教材も一定数存在。

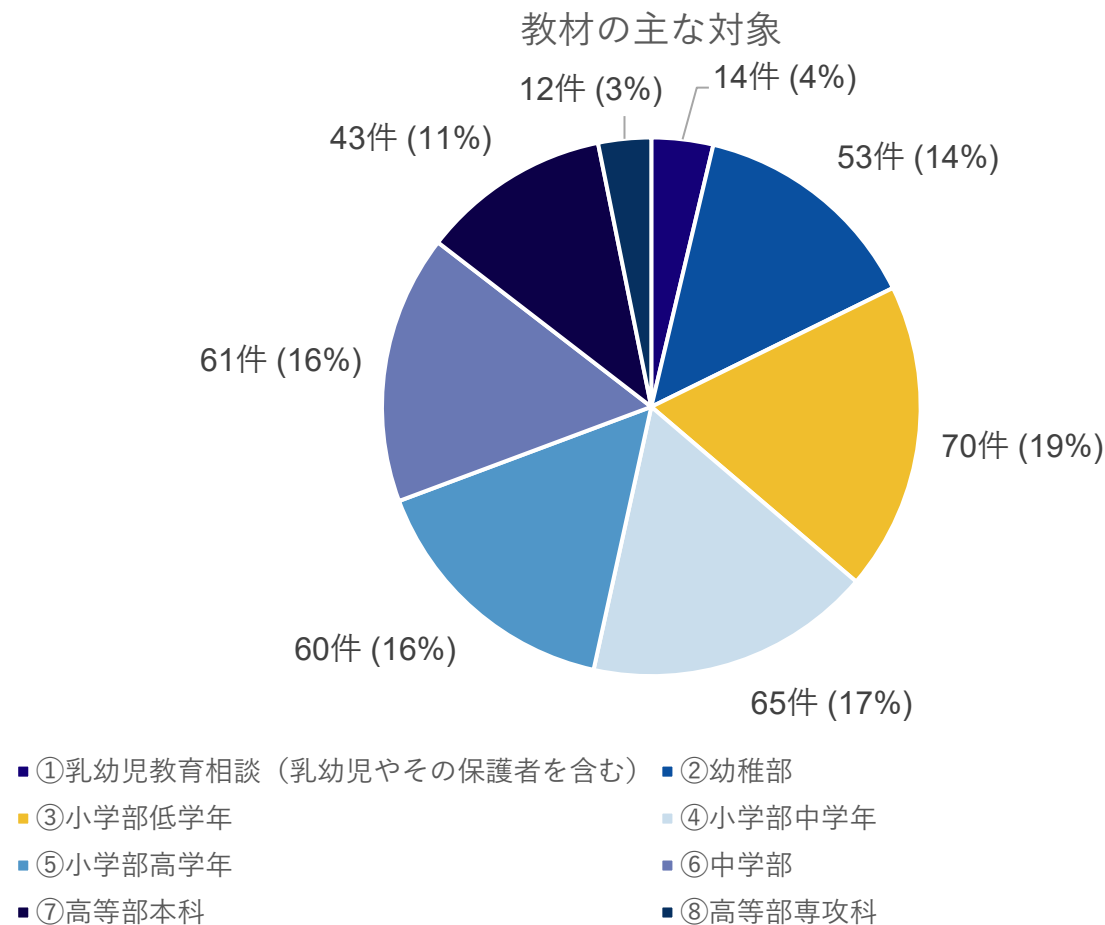
教材の主な目的



設問番号
10

教材の主な対象を①～⑧より該当するもの全てに「○」を選択してください。

- 教材の主な対象は幼稚部から高等部本科まで多岐に分布。

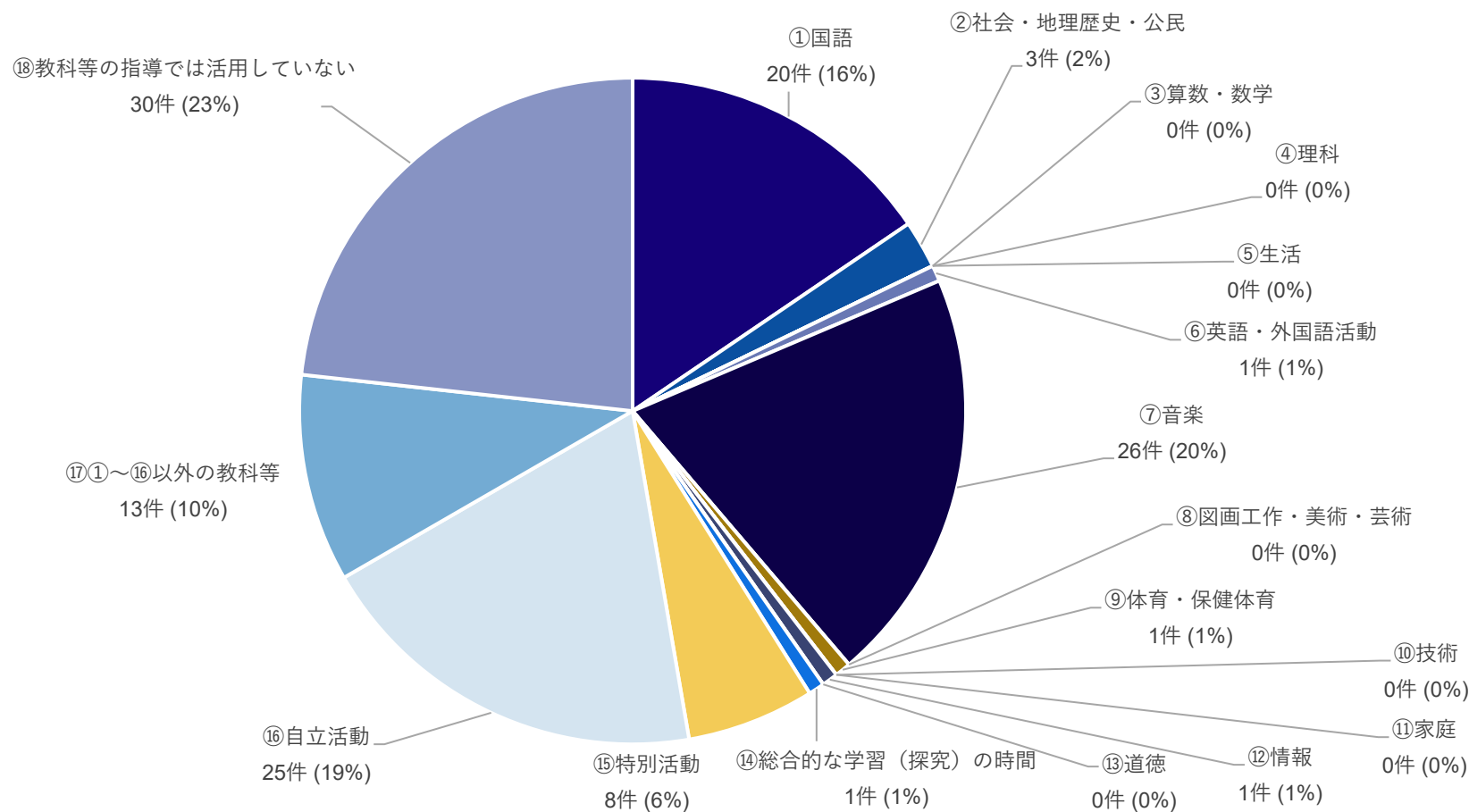


設問番号
11

教材を主に活用している教科等を選択してください。

- 教材を主に活用している教科等は①国語、⑦音楽、⑬自立活動、⑮各教科等の指導以外の場面での活用が多い。

教材を主に活用している教科等



(注) 5件の教材については、未回答だった

- 対象は③～⑤小学部、⑥中学部が特に多く、教科は⑦音楽が特に多い。
- 他方、③算数・数学など、手話教材に関する情報が得られなかった教科も一定数あった。

教科/対象	①乳幼児 教育相談	②幼稚部	③小学部 低学年	④小学部 中学年	⑤小学部 高学年	⑥中学部	⑦高等部本科	⑧高等部 専攻科	合計
①国語	0	1	12	8	5	5	2	0	33
②社会・地理歴史・公民	0	0	0	2	1	2	0	0	5
③算数・数学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④理科	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤生活	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥英語・外国語活動	0	0	0	0	0	1	0	0	1
⑦音楽	1	12	24	25	24	23	15	5	129
⑧図画工作・美術・芸術	0	0	0	0	0	0	1	0	1
⑨体育・保健体育	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑩技術	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑪家庭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑫情報	0	0	0	0	0	0	1	0	1
⑬道徳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑭総合的な学習（探究） の時間	0	0	0	0	1	1	0	0	2
⑮特別活動	0	4	6	6	6	8	5	2	37
⑯自立活動	1	9	13	12	11	10	8	1	65
⑰①～⑯以外の教科等	5	8	5	3	3	2	2	0	28
⑱教科等の指導では活用 していない	7	18	6	6	6	8	9	4	64
合計	14	53	70	65	60	61	43	12	366

設問番号
12

(設問11.において「⑰①～⑰以外の教科等」と回答された方のみご回答ください。)
教材を主に活用している教科等を記入してください。

- ①～⑰の小学校・中学校中心とした教科・科目の整理には含まない、幼稚部を中心とした活用に関する回答が大半を占めた。

回答結果例

保育「言葉」

幼稚部の教科等を合わせた指導

保育活動全般

幼稚部保育の中で活用している

生活単元学習

必要に応じて使用

重複学級での日常生活指導や生活単元学習

すべての学習において使用

集会活動行事の事前事後学習

幼稚部「総合遊び」「トピックス」等

幼稚部での全活動

設問番号
13

教材を各教科等の指導以外の場面で活用している場合は、その具体的な場면을記入してください。
活用していない場合は「活用していない」と記入してください。

- 情報収集できた教材全134件のうち、活用場面に関する言及があった回答は88件あった。
- 活用場面について、具体的な場면을整理すると、以下6分類に整理することができる。

回答状況	件数	内訳・備考
回答あり	108	テキストで何らかの記述がされている件数
(うち、活用場面の記述あり)	88	実際に活用している場面や対象が記載されているもの
(うち、「活用していない」「授業以外では使用しない」等)	20	「活用していない」「授業以外では使用しない」等の未活用の回答
未回答（空欄）	26	記述がないもの
合計	134	

分類カテゴリ	件数	主な該当キーワード・記述例
① 学校行事・式典	40件	行事の事前指導、校歌の練習、全校朝会、入学式・卒業式、儀式、遠足、司会進行など
② 日常生活・帯時間	29件	朝の会、帰りの会、休み時間、給食、学級活動、朝の読書タイム、一日の流れ、日常のやり取りなど
③ 特定の学習活動（事前事後指導含む）	26件	事前事後学習、自立活動、絵日記、ことば遊び、絵本の読み聞かせなど
④ 校内掲示・環境構成	12件	教室掲示、各学部の掲示板、デジタルサイネージなど
⑤ 保護者支援・家庭学習	10件	保護者の手話勉強会、乳幼児教育相談、家庭での確認、お便りなど
⑥ 教職員の研修・共通理解	7件	職員の共通理解、職員研修、新任者研修など

設問番号
14

教材の概要（教材の内容、ねらい、使用方法等）について、記入してください。

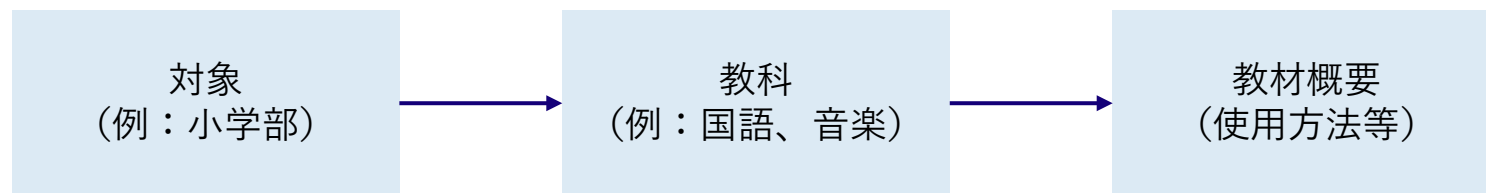
- 情報収集できた教材全134件について、いずれも内容、ねらい、使用方法について回答を得られた。
- 得られた回答については、情報量も多いことからAPPENDIXにおいて一覧を整理した。
- なお、整理の考え方は以下の通り。
 - ・ 本報告書の読者として特別支援学校（教員等）を想定し、「自分の担当する学年・教科に適切な教材とはどのようなものがあるのか」という観点で整理結果を閲覧しやすいように、整理を行った。

本報告書の読者（弊社仮説）



教員

教材探索の手順（弊社仮説）



3. 調査まとめ（プラットフォームの在り方）

- 1. および 2. で実施した文献調査、アンケート調査等の結果を踏まえ、プラットフォームの在り方について以下の観点・ステップで整理・検討を行う。
- まず、プラットフォームの「①想定利用者」を特定し、その利用者がどのような場面で活用するかという「②ユースケース」を洗い出す。その上で、ユースケースを実現するために必要な「③機能要件」および「④コンテンツ要件」を整理し、最終的に「⑤プラットフォームの在り方（既存合流・新規構築の比較等）」を提案する。

検討のステップ

想定利用者の特定

- アンケート結果等から、誰がプラットフォームを利用するかを明確化

ユースケースの検討

- 過去の調査研究やヒアリング結果から、各利用者の具体的な利用シーンを想定

機能要件の整理

- 「検索」、「閲覧」、「活用」のフェーズごとに、求められるシステム上の機能を定義

コンテンツ要件の整理

- 収集した教材の偏りや現場のニーズを踏まえ、掲載すべき教材の形式や内容の要件を定義

プラットフォームの在り方の提案

- 既存のプラットフォームとの関係性や、権利処理（著作権等）を踏まえた運用上の留意事項を整理

- 本事項を整理する上で、「聴覚障害教育における教科指導等の充実に資する教材活用に関する調査」（平成29年度）に携わられた国立特別支援教育総合研究所の山本晃 情報・支援部 部長兼上席総括研究員より、以下の点についてご助言を賜った。

内容	ヒアリング回答
プラットフォームの想定利用者とユースケースについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員： <ul style="list-style-type: none"> ➢ ダウンロードして即授業で使えることが重要。「明日の授業ですぐ使える」ことを目的に、児童生徒の実態に合わせて内容を調整（加工・編集）して利用する。 ・ 教育委員会： <ul style="list-style-type: none"> ➢ 主に「教員研修」の場において、実践事例や動画教材を参照・活用する。また、教育委員会が現場に展開する際、民間企業名義よりも国等公的機関からの発信の方が受け入れられやすい。 ・ 聴覚障害の児童生徒： <ul style="list-style-type: none"> ➢ 1人1台端末の普及を踏まえ、漢字・熟語や算数・数学等の専門用語を手話で学べる「辞書的」な使い方を想定。 ・ 保護者： <ul style="list-style-type: none"> ➢ 独立した保護者向けページを設けるよりも、子供向けページへ誘導し、「自分の子供にどの教材を見せればよいか」を把握して家庭学習をサポートする導線が現実的。
機能要件について	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラットフォーム上で提供する際、使いやすい機能： <ul style="list-style-type: none"> ➢ 効果測定等の詳細データよりも、「どんな場面で使われているか（朝の会、給食、自立活動等）」や「教材の目的（教科学習、マナー等）」が一目で分かる概要説明（メタ情報）の表示機能 ・ 教員が教材を利用する際、使いやすい検索機能： <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学年は細かく分けすぎず（低学年／高学年等）、通常の学級の難聴児も使いやすい汎用的な分類が望ましい ・ 児童生徒や保護者が利用する際、使いやすい機能： <ul style="list-style-type: none"> ➢ 直感的に目的の教材（辞書的なコンテンツ等）にたどり着けるシンプルな導線設計
コンテンツ要件について	<ul style="list-style-type: none"> ・ プラットフォーム上で提供する際、嬉しいコンテンツ： <ul style="list-style-type: none"> ➢ 現場の教員が児童生徒の多様な実態に合わせて内容を調整できるよう、編集不可のPDFではなく、PowerPointやWord等の「編集可能なファイル形式」のデジタルデータ。また、研修等でそのまま使用できる、手話＋字幕付きの動画教材。
プラットフォームの在り方について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材そのもののプラットフォームを新規構築するのではなく、特総研や文科省等の既存のWebサイト内に特設ページ／ポータル的な位置づけで「情報を集約・提供」する形が現実的である。 ・ 他のデータベースを参照すると、「ダウンロードしてすぐ使える形」になっていないと利用が進まないことが分かっている。 ・ 自作教材は他教材の引用など著作権上のリスクが高いため、権利に関する問題を確実にクリアしている教材のみ掲載するか、データ本体ではなく「教材の目的・使用場面などの説明情報のみを掲載する」という選択肢も有効である。

- プラットフォームの主な利用者は、本事業が要件として想定している利用範囲（全国の特別支援学校や教育委員会等での情報参照）および、アンケート・文献調査の結果から、以下の4者を想定する。
- 特に「教員」が授業準備等で活用することが主目的となるが、家庭での学習や、地域全体の特別支援教育の底上げを担う教育委員会等も重要なステークホルダーとなる。

想定利用者	想定される目的
教員	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校（聴覚障害）において、児童生徒の実態に応じた授業準備・教材の加工・自作を行うため。 「明日の授業ですぐ使える」ことが重要であり、児童生徒の理解度に合わせて自由に調整できる編集可能なファイル形式（PowerPoint、Word等）での取得を主な目的とする。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> 管轄する特別支援学校やインクルーシブ教育を推進する通常校に対して、優良な学習教材の共有・教員研修での活用を行うため。 民間発信ではなく国等公的機関のプラットフォームとして周知されることで、教育現場への受け入れ・定着を促進する。
聴覚障害の児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ内容の振り返りや、個人のペースに合わせた反復学習を促進するため。 1人1台端末を活用し、漢字・熟語や算数・数学等の専門用語を手話で学べる「辞書的な使い方」を想定。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の家庭学習のサポートや、保護者自身が手話を習得し、家庭内でのコミュニケーションを円滑にするため。 独立した保護者向けページを設けるのではなく、子供向けページへ誘導し、「自分の子供にどの教材を見せればよいか」が直感的に分かる導線を通じて利用する。

- 特総研の過去の調査結果や本事業でのアンケート・ヒアリング調査の結果をもとに、利用者ごとのユースケース（利用場面）を詳細化した。
- 教員においては、単なる教材の「閲覧」とどまらず、自校の児童生徒の理解度に合わせて「加工・編集」するニーズが非常に高いことが読み取れる。

利用者	具体的なユースケース
教員	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業の導入や説明において、電子媒体（動画・スライド）として教材を提示したい。 ● 通常の教材では説明しにくい専門用語の手話表現等について、自校の児童生徒の理解度に合わせてテロップや説明文を書き換えながら使用したい。 ● 他の教員が作成した指導案やワークシートをダウンロードし、自身の授業の参考にしたい。
聴覚障害の児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> ● 自己調整学習の観点から、授業で分からなかった箇所や、興味を持った専門用語を自らのペースで主体的に調べる「辞書的な使い方」を想定。 ● もう一度確認したい手話表現などを、自宅のタブレットやスマートフォンで復習したい。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供が学校で習っている手話表現を知り、家庭内でも同じ表現を使って会話したい。 ● 聴覚障害教育に関する基礎情報や、日常生活で役立つ手話表現を学びたい。
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 管轄する特別支援学校やインクルーシブ教育を推進する通常校に対して、優良な教材の共有・教員研修での紹介を行うため。 ● 域内の初任者研修や担当教員向けの研修において、優良な教材のモデルとして紹介したい。

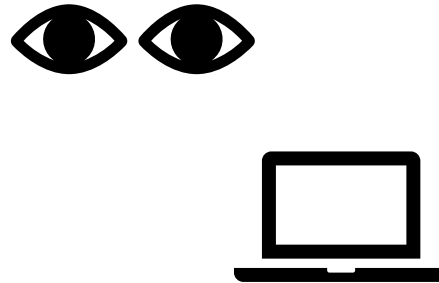
- 前頁のユースケースを満たすために、プラットフォームに求められる機能要件を「検索」、「閲覧」、「活用」の3フェーズに分類して整理した。
- 特に、多様な対象学年・教科の教材から目的のものを見つけ出すための詳細な「検索機能」と、二次利用を前提とした「活用機能（ダウンロード等）」が重要となる。

検索



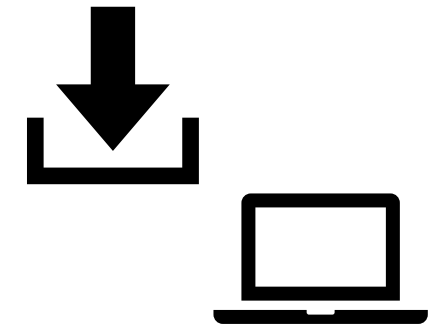
- 絞り込み機能
- フリーワード機能
- コード検索機能
- ソート（並べ替え）機能
- レcommend機能 など

閲覧



- 動画プレイヤー機能
- 概要表示機能
- マルチデバイス対応
- アクセシビリティ など

活用



- ダウンロード機能
- 一括ダウンロード機能
- ブックマーク機能
- 共有（シェア）機能 など

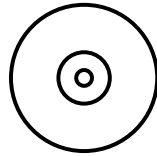
- 前頁で整理した各フェーズにおいて、プラットフォームに実装すべき具体的な機能要件を下表に整理した。
- アンケート調査および文献調査の結果から読み取れる「教員が児童生徒の実態に合わせて教材を加工するニーズ」や「目的の教材に効率的にたどり着くための多様な検索ニーズ」を満たすための詳細な仕様を定義している。

フェーズ	機能名称	具体的な機能要件（詳細仕様）
検索	絞り込み検索	<ul style="list-style-type: none"> ・「教科・科目」、「対象学年」での掛け合わせ絞り込み。 ※学年は細かく分けすぎず（小学部低学年／高学年、中学部等）、通常の学級の難聴児も使いやすい汎用的な分類とする。 ・「利用場面（教科の時間、自立活動、朝の会、給食、行事等）」での絞り込み。 ・「ファイル形式（動画、PPT、Word等 ※PDFはニーズが低いため除外・優先度低）」での絞り込み。
	フリーワード検索	・教材のタイトル、概要、ねらい等に含まれるキーワードでの検索機能。
	コード検索	・学習指導要領のコード（番号）を直接入力し、対応する教材をピンポイントで検索する機能。
	ソート（並び替え）	・検索結果を「新着順」「閲覧数順」「ダウンロード数順」「関連度順」等で並び替える機能。
	レコメンド機能	・「同じ単元の教材」や「この教材を見た人が見ている別の教材」を表示する関連教材提案機能。
閲覧	動画プレイヤー機能	<ul style="list-style-type: none"> ・手話の動きを正確に確認・学習するための「再生速度の調整機能（スロー再生、倍速再生等）」。 ・動画内の「字幕（テロップ）のON/OFF切り替え機能」。 ・シークバーによる任意の位置からの再生機能。
	概要表示機能	「どんな場面で使われているか（使用場面）」や「教材の目的（教科学習、社会参加・マナー習得等）」が一目で分かる概要説明機能。
	マルチデバイス対応	・学校の電子黒板やPC、タブレットやスマートフォンなど、画面サイズに合わせて最適化されるレスポンシブUI。
	アクセシビリティ	・視覚的特性やUI/UXに配慮した機能。（※聴覚障害特性に配慮したUI/UX要件の詳細は次頁参照）
活用	ダウンロード機能	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が児童生徒の実態に合わせて自由に加工できるよう、編集可能なファイル形式（PowerPoint、Word等）でのダウンロード機能。 （動画教材と、それに紐づく指導案やワークシートをセットで一括で取得できる機能があるとなおよい）
	ブックマーク機能	・教員が授業準備のために、気になる教材を一時的に保存しておける「お気に入り機能」。
	共有（シェア）機能	・特定の教材のURLをコピーし、他の教員への共有や、Google Classroom等のLMS（学習管理システム）へ容易に連携できる機能。

- なお、児童生徒や保護者（聴覚障害当事者を含む）が直感的に利用できるように備える必要があるため、一般的なウェブアクセシビリティに加え、手話動画の特性を踏まえた以下のUI/UX要件を定義することも重要であると考え、特に以下4つはプラットフォーム自体の機能・設計として優先的に具備する必要があると思料。

①動画プレイヤーの要件

手や指先の細かな動き、口形、表情を正確に読み取れるよう、プラットフォーム上で一定以上の解像度とフレームレート（滑らかさ）を維持して再生できるプレイヤー機能を具備する。



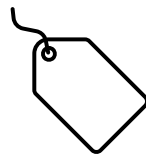
②視覚的な情報保障

メニューや検索ボタン等はテキストだけでなく直感的なアイコンを併用する。また、主要テキストへの「ふりがな（ルビ）付与機能」を備える。



③汎用的なタグ・分類設計

「朝の会」、「給食」、「自立活動」など、どのような場面で使われているかが直感的に分かる汎用的な「利用場面タグ」を採用する。



④視覚的ノイズを排除した画面設計

手話動画や教材を閲覧するページにおいて、背景や周囲の装飾が視覚的なノイズ（集中を妨げる要因）にならないよう、シンプルでコントラスト比の高いデザインを採用する。



- アンケート調査（教材の整理）および文献調査の結果から、プラットフォームに蓄積・提供されるべきコンテンツの要件を整理した。
- アンケート結果において「音楽」、「自立活動」、「国語」に教材が集中し、「算数・数学」、「理科」等が不足している現状も踏まえ、今後、コンテンツの拡充方針を検討する必要がある。

①編集可能なデジタルデータ（加工前提の素材）

- 現場の教員が多様な児童生徒の実態に合わせて内容を調整できるよう、編集不可のPDFではなく、PowerPointやWord等の編集可能なデータ、または研修等でそのまま使える字幕・手話付き動画コンテンツであること。

②学習指導要領に対応したメタデータが付与されたコンテンツ

- 教員が授業準備の起点としやすいよう、学習指導要領の「教科」、「単元」のコードが紐づけられているコンテンツであること。

③権利関係がクリアなコンテンツ（または説明情報のみに加工されたコンテンツ）

- 自作教材には他教材の引用等が含まれることが多く、著作権上のリスクが高い。そのため、無理にすべての教材データを掲載するのではなく、権利関係が完全にクリアになった少数の優良教材に絞って掲載する方針とする。
- 権利処理が難しい場合は、データ本体ではなく「教材の目的や使用場面等の説明情報のみ」に加工されたコンテンツであること。

<追加が望まれるコンテンツ>

④「自立活動」や「日常生活」の場面を想定した短尺コンテンツ

- アンケートで「自立活動」や「特別活動」での利用事例が多く見られたことから、教科指導だけでなく、日常会話、感情表現、学校行事などで使用される手話動画クリップ（短尺動画）のニーズが高い。これは保護者の家庭学習ニーズにも直結する。

⑤理数系等の専門用語の手話解説を含むコンテンツ

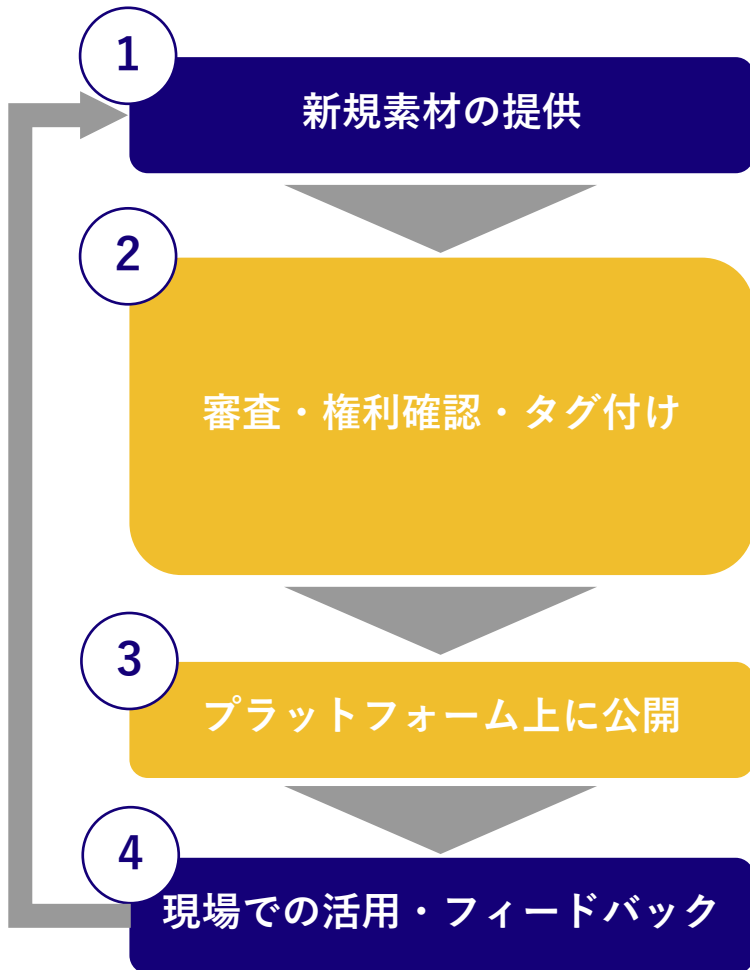
- 専門用語の手話表現が難しいとされる「算数・数学」、「理科」などの教科領域について、用語の解説や手順を示すコンテンツ。

- プラットフォームが形骸化せず、要件に沿ったコンテンツが継続的に全国の教育現場で活用されるためには、構築後の「運用・管理スキーム」の確立も不可欠である。

実施主体：

教員・教育委員会等

プラットフォームの
運営事務局



- 教員が自作した教材を、日常的に提案・提供できる窓口を設ける。
- 提供時に、WordやPPT等の「編集可能な形式」でのアップロードを基本とし、同時に利用規約への同意（著作権のクリアや、他教員による自由な加工・編集への承諾、公開に向けた管理者による処理への許諾等）を必須とする。
- 提供された教材に対し、以下のスクリーニングおよび整理を実施する。
 - 手話表現の適切さ（学習者の混乱を招く明らかな誤りや不自然な表現がないかの確認）
 - 【著作権・引用要件のクリア】他者の権利を侵害していないか
 - 【個人情報・肖像権のクリア】児童生徒が映り込んでいないか
※権利処理が難しい場合、教材本体でなく概要のみに変換して採用
 - 【メタデータの付与】検索性を高めるため、学習指導要領コードや「利用場面」等の適切なタグ付けを行う
- 現場の信頼性を担保するため、公的機関の持つプラットフォームに掲載。
- キッズページへの連携など、目的に応じた適切なページへ配置する。
- 教員がダウンロードして授業用に加工・編集、または、教育委員会が研修で活用等。
- 利用者の声（評価や改善要望）を収集し、①の新規教材開発へとループさせる。

- プラットフォームの構築について、既存のプラットフォームへの【合流】と、手話教材に特化した【新規構築】の2つのアプローチについて比較検討を行った。
 (※) 既存のプラットフォームについては、特総研の支援教材ポータルを例にして検討した。
- 結論として、機能要件（検索・ダウンロード等）を充足できるのであれば、「既存プラットフォームへの合流」が望ましいと思料。システムの構築・維持コストを抑え、教材の審査・公開といった「継続的な運用・管理スキーム」にリソースを集中できるため、持続可能性の観点からも合理的である。ただし、手話特有の機能（スロー再生等）の実装可否についてはシステムのなすり合わせが必要となる。

	メリット	デメリット・懸念
既存プラットフォームへの合流 (例：支援教材ポータル)	<ul style="list-style-type: none"> 他の障害種別の教材と統合的に検索できるため、教員が複数のサイトを巡回する手間が省け、負担軽減に繋がる システムの初期構築・維持費用が抑えられ、浮いたリソースを教材の審査や追加といった「形骸化を防ぐための継続的な運用」に集中しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 手話動画に特化した独自のプレイヤー機能（速度調整等）の追加実装が難しい可能性がある。 既存の検索カテゴリ（UI）に手話用のタグを追加する必要があり、過去の膨大な既存教材とのタグ付けの整合性をとる運用負荷が懸念される。
新規プラットフォームの構築	<ul style="list-style-type: none"> 手話教材に完全に特化したUI/UX、検索軸、動画プレイヤーを自由に設計・構築できる。 	<ul style="list-style-type: none"> システムの新規構築、サーバー維持、セキュリティ対策など継続的な運用コストが発生する。 全国の教育現場に新しいプラットフォームを認知させる必要があり、教材の参照先が分散することで教員の検索負担が増加する懸念がある。

プラットフォームの画面イメージ

- 前頁までに整理した要件を具備したプラットフォームの画面イメージを示す。
※既存プラットフォームですでに具備している機能に加えて求められている機能も付与した理想として示す。

教材ポータル

絞り込み検索

対象学年から探す

乳幼児教育相談
 幼稚部
 小学校低学年
 小学校中学年
 小学校高学年

もっと見る

教科・科目から探す

国語 生活
 社会 図工
 算数 美術
 数学 音楽
 理科 技術

もっと見る

利用場面タグから探す

もっと見る

検索結果

小学校低学年 音楽

教材概要：儀式や学校行事で使用する手話歌を練習するための動画教材

ダウンロード可能

小学校低学年 音楽

教材概要：授業で歌う歌を手話で練習するための動画教材

ダウンロード不可

詳細画面

再生速度調整 (スロー/倍速)

字幕 ON/OFF

小学校低学年 音楽

教材概要：儀式や学校行事で使用する手話歌を練習するための動画教材
ねらい：歌詞の意味を生徒が具体的に想起できるよう、手話歌の映像を見せながら指導を行い、実際に歌えるようになる

教材をダウンロード (PPT形式)

お気に入り追加

URLをコピー

スロー再生や字幕切替を実装

現場で加工できるようPPT/Word形式で取得可能

利用場面タグで直感的に絞り込み可能

- 個人情報の取り扱いや知的財産権に係る処理等に留意しつつ、本事業で検討した要件を踏まえ、プラットフォーム上で教材を公開するにあたり、権利侵害を防ぐためにプラットフォーム上に明記すべき留意事項を以下に整理する。

① 第三者の著作物の「引用」に関するガイドラインの提示

- ・ 各学校から提供された教材のうち、第三者の著作物（絵本、教科書、ニュース映像等）が含まれるものについては、著作権法第32条の「引用の要件（明瞭区別性、主従関係、出所の明示等）」を満たしていることを確認した上で掲載している旨を明記する。
- ・ また、利用者（教員等）に対して、ダウンロードした教材を改変して二次利用する際にも、引用要件を逸脱しないよう注意喚起を行う。

② 学校および設置者からの利用許諾に関する明示

- ・ プラットフォームに掲載されている学習教材およびその内容等の情報については、あらかじめ作成元の特別支援学校（必要に応じて学校設置者を含む）から公開の許諾を得たものである旨を明記する。
- ・ 併せて、利用者が教材をダウンロードおよび加工（翻案）する際の許諾範囲（例えば「教育目的での非営利利用に限る」など）を利用規約等で明確に表示する。

③ 個人情報および肖像権への配慮事項

- ・ 教材の動画や写真に児童生徒等の人物が映り込んでいる場合、プラットフォームへの公開に関する同意（肖像権の許諾）が学校側で取得済みであることを前提としている旨を記載し、利用者が映像を不適切に切り取ってSNS等へ転載することを固く禁じる旨を明記する。

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO



APPENDIX（教材の整理結果 詳細）

【備考】

- 設問番号12にて回答を得た結果をふまえ、学部等別かつ教科別に作成・活用される教材の状況について整理を行った。
- 以降は、学部等（①乳幼児教育相談、②幼稚部、③小学部、④中学部、⑤高等部本科、⑥高等部専攻科）の順番に整理結果を示す。

①乳幼児教育相談

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
1	⑦音楽	手話付きの校歌動画	校歌に対応した手話をつけることで、音声のみではなく、手話による歌詞の理解を促進するとともに、校歌の定着を促進する	幼稚部や小学部低学年の全幼児・児童を対象に校歌の指導に動画を併用する。
2	⑩自立活動	手話のイラストつきの掲示物	手話表現があいまいな幼児児童生徒、教員に対して、手話の語彙数を増やし手話の活用を促す。	自立活動掲示版を各学部や職員室前に設置している。掲示版の一部のコーナーに掲示して手話の習得を目指す。
3	⑰①～⑰⑯以外の教科等	手話のイラストを入れたカード	身近なものや生活に関する言葉を習得するため	季節にまつわるものや身近なものなどのカードを作成し、教室や廊下の掲示板に実物とともに掲示したり、活動の際に提示したりして繰り返し目にすることができるようにしている。
4	⑰①～⑰⑯以外の教科等	手話単語を使用した日本語の文章の理解	手話言語および日本語の習得	日本語に対応した手話単語をイラストで示しながら、助詞や接続詞にも注目させ、日本語の文章の理解を促している。
5	⑰①～⑰⑯以外の教科等	・遠足の事前指導（いつ、どこ、だれ、どうやって、なにを） ・遠足の約束	・遠足に行く前に、イメージをもって話したり、見通しをもったりして遠足を楽しめるようにする。	・絵、写真、手話表現をトータルに活用、提示する。 ・使用後は紙でも印刷し、教室環境の一部にする。
6	⑰①～⑰⑯以外の教科等	手話のイラストを貼付したプレゼンテーション	カナ文字の習得段階にある幼児に対して手話のイラストを貼付することで理解を促す。	遠足の事前説明や事後の振り返りをプレゼンテーションソフトで掲示している。文字に手話のイラストを添えている。
7	⑰①～⑰⑯以外の教科等	絵本の手話での読み聞かせの映像	読むだけでは理解が難しい幼児児童生徒に対して、手話を付け加えることで内容を理解できるようにするため。	特別活動や読書タイムに活用。 保護者への手話の啓発にも活用可能かも。
8	⑰教科等の指導では活用していない	日常生活でつかう手話辞典	家庭で保護者が手話を使って子どもと関わるができる	ミニ冊子を作成、配付（乳幼児相談、家庭、保育園等）

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
9	⑱教科等の指導では活用していない	手話動画・写真 ①手話の勉強会 ②お便りの裏面にQRコードを添付	日常生活でよく使用する手話表現を紹介することで、親子が手話を使って円滑にコミュニケーションが図れるようにする。	動画・・・お便りの裏面に添付しているQRコードを読み取り動画を見る。 写真・・・お便りの裏面に載っている写真を見る。手話の勉強会でスライド上にある写真を見る。
10	⑱教科等の指導では活用していない	保護者手話学習会の様子	手話学習の復習、欠席者への家庭学習	CDを貸し出して、家庭で視聴
11	⑱教科等の指導では活用していない	身振りサイン表	子供とのコミュニケーションをスムーズにする方法の紹介	乳幼児教育相談に通う保護者の多くが健聴者である。そのため、保護者が手話を身に付け、乳幼児の気持ちの動きに合わせた豊かなやり取りができるように、身振りサイン表を作成した。保護者学習会で使用したり、保護者が家庭でも振り返ったりすることができるようにしている。
12	⑱教科等の指導では活用していない	乳幼児期の子どもとその保護者が、共通して活用できそうなものを取り扱っている。	子どもと保護者が家庭でコミュニケーションを豊かにするため。	乳幼児教育相談の第1回目に情報として保護者へ提示し、支援の内容や相談の流れの中で活用を促すような言葉かけを行っている。
13	⑱教科等の指導では活用していない	気持ち（楽しい、嬉しい、悲しい、面白いなど）や問い掛け方等の手話表現。コミュニケーションのポイント等を記載。	手話自体を教える目的というよりは、関わり方（子供の気持ちを言語化して伝える、子供に問い掛ける等）を保護者に伝えることを目的としている。	教育相談時に、担当者が実際に子供に対しての関わり方を見せる。そのポイントを、支援シートを用いて伝える。
14	⑱教科等の指導では活用していない	日常生活で使用する手話の映像教材	学習内容をいつでも振り返られるようにするとともに、研修会に参加していない他の家族にも視聴してもらうことで、親子のコミュニケーションを豊かにすることをねらいとしている。	YouTubeで限定配信するよう設定し、研修会の参加者にURLを知らせている。



②幼稚部

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
1	①国語	覚えてほしい言葉や文章の手話表現と言葉を表示したシート	手話表現・言葉・動作の獲得	シートを見ながら手話表現、言葉、動作を行う。
2	⑦音楽	手話による国歌	デフリンピックを機に式典においては手話による国歌を活用するため	手話と指文字、文字情報を同一画面で提示することにより、手話による国歌の表現を練習する。
3	⑦音楽	手話付きの校歌	手話付きの校歌を覚えるため	音楽の授業や学級で使用している。職員の研修において、主に新転任の職員へ活用を促している。
4	⑦音楽	校歌の手話表現	歌詞の意味理解とその表現	動画視聴
5	⑦音楽	校歌の歌詞を手話で表したイラスト教材	校歌の歌詞に出てくる語句の意味を理解し、歌唱の際に、手話でも表現できるようにする	式典等の歌唱指導や音楽の教科指導において、教材として活用している。
6	⑦音楽	儀式や学校行事で使用する手話歌の映像教材	歌詞の意味を生徒が具体的に想起できるよう、手話歌の映像を見せながら指導を行っている。	校歌や式歌、また新しく覚える歌などについて、作成した手話動画を活用し、歌詞に使われている言葉や意味の理解を促している。
7	⑦音楽	校歌の映像教材	校歌のリズムを視覚的にとらえると共に、映像から校歌の手話表現を学ぶ。	音楽の授業や自立活動、また日常生活の中で流し、手話表現を練習する。また、式典時にも流し、確認しながら歌えるように使用している。
8	⑦音楽	校歌、市歌等を手話で表した画像・映像教材	皆で話し合い考えた手話表現を統一し、諸行事で一緒に歌うことで、一体感を味わう。	画像や映像を作成し、音楽等の授業や学級等で練習できるようにしている。
9	⑦音楽	手話付きの校歌動画	校歌に対応した手話をつけることで、音声のみではなく、手話による歌詞の理解を促進するとともに、校歌の定着を促進する	幼稚部や小学部低学年の全幼児・児童を対象に校歌の指導に動画を併用する。
10	⑦音楽	校歌	校歌の意味を知り、学校への愛着やみんなと一緒に歌うことでの連帯感をもつため。	幼児児童生徒に対して、校歌を手話で表した映像教材や紙面を提示し、内容理解を促している。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
11	⑦音楽	校歌の手話動画	校歌を音声だけでなく手話でも分かるようにする。指揮担当職員が代わっても、手話表現の揺れを生じさせずに円滑に引き継げるようにする。	音楽の授業及び儀式的行事などで動画を流し、動画の音声と手話に合わせて歌唱する。
12	⑦音楽	校歌を手話で表したイラスト・映像教材	校歌の歌詞の意味を確かめながら、正しい手話表現を覚えて歌う。	音楽の授業等で、特に初めて本校の校歌を覚える児童・生徒・職員に対して使用している。
13	⑦音楽	手話歌の動画	学習発表会や式典式典で使用用手話歌を動画で共有して、授業や学級で活用できるようにする。	タブレットに動画を入れ、音楽の授業や学級の朝の会等の時間に練習している。※本校の在籍は中・高等部のみである。
14	⑮特別活動	校歌、式歌等を手話で表した映像教材	歌詞や意味を知ること、歌に思いを寄せ心を込めて卒業生を送り出す	壇上のモニターで流す 式の前日まで、廊下の情報ボードでながす
15	⑮特別活動	手話による交流会	クイズを交えて他校との交流会を行う。	手話ができる学校の生徒が他校の生徒に向けて手話を交えて説明をする。
16	⑮特別活動	校歌（伴奏・歌）を手話で表現した映像	校歌（リズム）に合わせた手話表現の習得	就学した学年や、小学部を中心に儀式的行事の前等に校歌を練習する際に活用。
17	⑮特別活動	校歌、式歌を手話で表した動画に歌詞を字幕として付している	式典で手話を使用しながら歌えるようになる	音楽担当者、式歌担当者が不在の場面で練習する際に使用する 自習で使用する
18	⑯自立活動	あいさつなどの手話表現を表したプリント掲示物	日常的に使用するあいさつなどのことばを手話でも表せるようにする	あいさつなどをする際にその都度教員が掲示物を見せ、一緒に手話で表現する。
19	⑯自立活動	手話のイラストを貼付したカード	かな文字の習得段階にある幼稚部幼児に対して、文字だけではなく、手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	教室前に季節にまつわるコーナーを設け文字に手話のイラストを添えたカードを展示物に貼り付けるなどして、言葉の理解を促している。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
20	⑩自立活動	手話のイラストつきの掲示物	手話表現があいまいな幼児児童生徒、教員に対して、手話の語彙数を増やし手話の活用を促す。	自立活動掲示板を各学部や職員室前に設置している。掲示板の一部のコーナーに掲示して手話の習得を目指す。
21	⑩自立活動	手話の意味と表現を表した絵・写真カード	絵や写真だけでなく、文字と手話の絵を添付することで手話表現に対する理解を促す。	幼稚部教育活動全般において、使用。
22	⑩自立活動	手話のイラストを貼付したカード・掲示物	かな文字の習得段階にある幼稚部幼児や小学部低学年および重複児等に対して、文字だけでなく、手話のイラストを添えたカードを貼付することで理解を促す。	掲示物や展示物、絵日記、ことばじてん等の文字に手話のイラストを添えたカードを貼り付け、言葉の理解を促している。(幼稚部では、手書きの手話イラストを作っている。)
23	⑩自立活動	手話のイラストを貼付したカード等	幼児児童生徒に対して、文字(指文字)と手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	掲示物に貼ったり、授業中にその単語を使うときに提示したりする。
24	⑩自立活動	手話表現の読み取りを補助するためのスライド	指導者の手話表現に合わせてスライド資料を提示することにより、幼児児童生徒が手話の読み取りを補完するとともに、手話表現の理解につなげる。	「全校しゅわっち」の活動に参加している幼児児童生徒に対し、活動内容に関わる視覚情報をスライドで提示し、内容理解や手話表現の理解につなげている。
25	⑩自立活動	日常生活で多く活用する手話や指文字の絵カード	手話と言葉と文字の理解につなげる	指導者が伝える際に合わせて提示する
26	⑩自立活動	手話イラストを添付した掲示物	かな文字の習得段階にある幼児に対し、絵と文字、手話イラストを併せて提示することで理解を促している。小学部児童に対しても、語彙の拡充や定着を目的としている。	幼稚部では季節の事物に文字と手話イラストを合わせて貼付している。小学部では授業で扱った言葉に手話を合わせてカードを作成し、教室内に掲示している。
27	⑪①～⑩以外の教科等	手話のイラストを貼付したカード	学習に係る主な言葉を、文字だけではなく、手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	活動の中で、全幼児が使用する共通の手話を習得するために、事前の学習でイラストを見ながら教師と一緒に練習する。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
28	⑰①～⑰以外 の教科等	手話のイラストを貼付したカード	かな文字の習得段階にある幼稚部幼児に対して、文字だけではなく、手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	文字に手話のイラストを添えたカードを活動に用い、言葉の理解を促している。
29	⑰①～⑰以外 の教科等	手話のイラストを入れたカード	身近なものや生活に関する言葉を習得するため	季節にまつわるものや身近なものなどのカードを作成し、教室や廊下の掲示板に実物とともに掲示したり、活動の際に提示したりして繰り返し目にすることができるようにしている。
30	⑰①～⑰以外 の教科等	・遠足の事前指導（いつ、どこ、だれ、どうやって、なにを） ・遠足の約束	・遠足に行く前に、イメージをもって話したり、見通しをもったりして遠足を楽しめるようにする。	・絵、写真、手話表現をトータルに活用、提示する。 ・使用後は紙でも印刷し、教室環境の一部にする。
31	⑰①～⑰以外 の教科等	幼稚部で読み聞かせした絵本やトピックスや日記などでお話した内容を手話で撮影	保護者と共有し、家庭での会話の一助としてもらう。	Googleのクラスルームで共有する。
32	⑰①～⑰以外 の教科等	手話のイラストを貼付したカード	獲得言語の少ない幼児に対して、言葉の定着を促すため、手話のイラストを貼付している。	朝の会で使用する今日の予定や体調を表すカードを手話のイラスト付きのカードにしており、会話内容の理解の手掛かりとしている。
33	⑰①～⑰以外 の教科等	手話のイラストを貼付したプレゼンテーション	カナ文字の習得段階にある幼児に対して手話のイラストを貼付することで理解を促す。	遠足の事前説明や事後の振り返りをプレゼンテーションソフトで掲示している。文字に手話のイラストを添えている。
34	⑰①～⑰以外 の教科等	絵本の手話での読み聞かせの映像	読むだけでは理解が難しい幼児児童生徒に対して、手話を付け加えることで内容を理解できるようにするため。	特別活動や読書タイムに活用。 保護者への手話の啓発にも活用可能かも。
35	⑱教科等の指導では活用していない	各学部の行事紹介、県内の有名な場所紹介、デフリンピックについて、病院で使う手話等の動画	①幼児児童生徒が様々な手話表現を知る機会を設ける、楽しみながら手話に触れる機会を増やす ②幼児児童生徒等やその保護者、および教職員の手話習得	廊下に設置したテレビで常時動画を上映。内容は週毎に変更。最初の3日間は字幕なし、後の2つ日間は字幕付き。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
36	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の手話表現ビデオ	儀式的行事等における校歌の手話表現の理解・習得	学級指導で活用
37	⑱教科等の指導では活用していない	行事や遊びに出てくる新たに知る日本語、覚えてほしい日本語に手話のイラストを付ける。	新しい日本語をイメージとともに覚え、活用できるようにするため	廊下の掲示に使用し、繰り返し見られるようにする。カードにして教員が持ち、幼児に見せながら伝える。
38	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や式歌	校歌や式歌を共通した手話表現で行うため	事前学習や式典の際に映像を流している。
39	⑱教科等の指導では活用していない	季節のかるたの読み札を手話も使って表現	意味内容の理解を進めたり深めたりする	動画を見て絵札を取る、手話を模倣して覚えるなど
40	⑱教科等の指導では活用していない	日常生活でつかう手話辞典	家庭で保護者が手話を使って子どもと関わることができる	ミニ冊子を作成、配付（乳幼児相談、家庭、保育園等）
41	⑱教科等の指導では活用していない	手話のイラストを添付したカード	イラストや写真で示された内容の手話表現を習得する	月ごとの壁面や季節に関する言葉をコーナーに貼り、手話表現の習得やことばの理解を促す
42	⑱教科等の指導では活用していない	毎月の保育で使用する手話の映像教材	月ごとに学習する言葉や手話の情報を掲載することで、家庭でも振り返りに活用する。	学習支援アプリ「ロイロノート」を使い、月ごとに保育中に使用される言葉や手話を整理し、掲載する。それを保護者がスマートフォンで閲覧する。
43	⑱教科等の指導では活用していない	朝の挨拶の言葉を指文字のイラストで表したカード	朝の挨拶の言葉を一音一音分けて表すことで、日本語として意識する。朝の挨拶の言葉を、指文字で表せるようになる。	幼稚部の朝の会において、カードに描かれたイラストを見ながら教師と一緒に指文字を表すと同時に、一音一音音声で発音するように促す。
44	⑱教科等の指導では活用していない	絵本や本の紹介	読書週間の取組として、読書習慣の形成や主体的な読書活動の推進を図る。	図書室の一角にコーナーを設け、中・高等部の生徒が中心となって作成した動画を、図書館を利用する幼児児童生徒、保護者、教職員が誰でもいつでも視聴できるようにタブレットを設置し、活用した。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
45	⑱教科等の指導では活用していない	行事における司会進行の映像教材	幼児が学校でも自宅でも同じ手話表現で司会練習をすることができるようにする。	教師が表現する司会進行の手話を撮影し、保護者と共有する。幼児が学校でも自宅でも自信をもって取り組めるようにする。さらに保護者が手話に取り組める機会ともしている。
46	⑱教科等の指導では活用していない	日常で使う言葉について手話イラストを貼付した掲示物	文字と一緒に手話のイラストも目にすることで、言葉の定着前の手掛かりとしている。また、保護者も手話を確認することができるようにしている。	日常によく使う言葉について、イラストと文字と手話を一緒に提示し、カテゴリーごとに分けて教室に掲示している。言葉として定着するまで掲示しておくことで、わからなくなると自分で手話表現を確認したり、手話と文字を結び付けたりして活用している。また、掲示してあるので保護者も手話を確認でき、親子でのコミュニケーションに使用する頻度が増えている。
47	⑱教科等の指導では活用していない	季節と関連のある単語に手話のイラストを添えた幼稚部の保護者通信	かな文字の習得段階にある幼稚部幼児に対して、文字だけではなく、手話のイラストを添えることによって理解を促すとともに家庭でのやり取りの際に手話を用いることで保護者と幼児と一緒に習得できる。	本校の幼稚部全家庭に毎月配付。
48	⑱教科等の指導では活用していない	手話歌の動画	言語獲得期の幼稚部幼児に対して、歌詞を音声だけではなく、日本語対应手話を同時に見ることにより、楽しみながら手話の獲得を促進する。保護者も歌詞と手話を同時に見ることにより手話獲得を促進する。	季節の歌を用いた音楽遊びの指導時に使用する。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
49	⑱教科等の指導では活用していない	手話を用いた歌、手遊び等を含む動画教材	かなの習得段階にある幼児に対して行事への期待感や季節の事物への関心をもたせ、手話を合わせて表現することで言葉の理解の促進を図る。親子で視聴することで、親が簡単な手話を理解し、子どもと一緒に遊んだりやり取りできたりすることをたすける。	季節や行事に関連する歌や手遊び、かんたんなゲームなどを教師が示範している動画を作成し、幼稚部在籍の保護者に限定配信をしている。家庭や学校での活動時に視聴し、歌や遊び、やりとりをする。
50	⑱教科等の指導では活用していない	手話のイラストを貼付したカード	かな文字の習得段階にある幼稚部幼児に対して、文字だけではなく、手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	文字に手話のイラストを添えたカードをフリップボードに張り付け、めくる仕掛けを加えることにより、幼児の集中を高め、言葉の理解を促している。
51	⑱教科等の指導では活用していない	気持ち（楽しい、嬉しい、悲しい、面白いなど）や問い掛け方等の手話表現。コミュニケーションのポイント等を記載。	手話自体を教える目的というよりは、関わり方（子供の気持ちを言語化して伝える、子供に問い掛ける等）を保護者に伝えることを目的としている。	教育相談時に、担当者が実際に子供に対しての関わり方を見せる。そのポイントを、支援シートを用いて伝える。
52	⑱教科等の指導では活用していない	日常生活で使用する手話の映像教材	学習内容をいつでも振り返られるようにするとともに、研修会に参加していない他の家族にも視聴してもらうことで、親子のコミュニケーションを豊かにすることをねらいとしている。	YouTubeで限定配信するよう設定し、研修会の参加者にURLを知らせている。
53	(無回答)	デフフッドの視点を取り入れた授業実践 (令和4年度～令和6年度校内研究 子どもたちの「生きる力」の育成を目指して ～デフフッドの視点を踏まえた授業実践及びカリキュラム・マネジメントの検討～を参照)	「デフフッド」とは、イギリスのパディ・ラッド博士が提起した概念であり、聴覚障がいのある方々をデフネス(deafness,聴覚を失っている)という視点ではなく、言語としての手話を使う存在、聴者に劣ることなく「ありのままに生きる人」として存在する概念であり、この概念・視点を日々の授業や学校生活の中に取り入れる。	令和4年度～令和6年度校内研究 子どもたちの「生きる力」の育成を目指して ～デフフッドの視点を踏まえた授業実践及びカリキュラム・マネジメントの検討～を参照

③小学部低学年

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
1	①国語	教科書文を手話で表した映像教材	授業で教科書の文章を初読する前に、教科書文を手話で表した映像教材を見るようにし、おおまかなあらすじをつかむ。	本教材は、国語科等の物語文における登場人物の心情や情景をより深く理解できるようにすることを目的に活用している。主に授業の導入段階で物語の全体像を把握するために提示する。
2	①国語	覚えてほしい言葉や文章の手話表現と言葉を表示したシート	手話表現・言葉・動作の獲得	シートを見ながら手話表現、言葉、動作を行う。
3	①国語	物語文を手話表現したもの	内容の理解	単元の初めに導入として児童に見せ、さらに読み進めていく中で理解を深めるために見せた。
4	①国語	教科書文を手話で表した映像教材	教科書の文章を初読する前や単元途中の必要に応じ、教科書文を手話で表した映像教材を見て内容を把握したり確認したりする	手話を主として使用している児童・生徒に対して、実態と教育的ニーズに合わせて教科書文を手話で表した映像教材を提示し、内容理解や確認をしている。
5	①国語	絵本	関心が高い絵本を題材に選び、手話イラストを手掛かりにすることで習得に繋げる	絵本をカラーコピーする。場面のキーワードとなるいくつかの手話をイラストで提示する。教員の手話を真似ながら手話をする中で、自然に覚えて絵本の場面に応じた手話を自ら表出し楽しんでいる
6	①国語	国語教材文で使用する単語の手話表現	国語の教材文で出てくる単語において、手話表現は知っているが日本語と結びついていない単語のマッチングを行う。	日本語（文字）と、それに対応する手話イラストを掲載したシートを教室内に掲示し、常に確認できるようにする。
7	①国語	物語の本文・挿絵等とともに手話のイラストを加えたパワーポイント	手話で意味理解を促す、表現できるようにする。	始めに音声とともに手話で読み聞かせる。その後本人にも単語または文を手話で表現させる。内容について対話が深められるようにしている。特に音声がない児童の場合はイラストを見ながら自発的に表現する姿が見られ、有効である。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
8	①国語	手話を用いた絵本（教科書所収のものも含む）の読み聞かせ動画	読書活動の一環としてボランティアを依頼し読み聞かせを行なっている。読書量の増加や、幅広く本に親しむことを目的としているが、教科書で取り上げられている物語については、授業でも内容理解の深化を目的としている。	DVDに編集し、各学級での授業に活用できるようにしている。
9	①国語	手話のイラストを貼付したワークシート	日本語の読み書きが苦手な児童に対して、文字だけでなく手話のイラストも貼付することで理解を促す。	手話を主として使用しており、自力で本文を読んで内容を理解することが難しい小学部低学年児童に対して、何について答えるか分かりやすくし、内容理解を促している。
10	①国語	教科書文を手話で表した映像教材	授業で教科書の文章を初読する前に、教科書文を手話で表した映像教材を見るようにし、おおまかなあらすじをつかむ。	手話を主として使用している小学部低学年児童に対して、その障害の状態等によって、単元の導入時に教科書文を手話で表した映像教材を提示し、内容理解を促している。また、映像教材はクラウド上にも保存しており、家庭学習でも閲覧できるようにしている。
11	①国語	①国語の物語、説明文の手話ビデオ教材 ②国語の語彙指導（一部手話付き）	①教材文の意味をつかみ、スムーズに音読することができるようにする。 ②国語の教材文に出てくる語彙を覚えると共に、手話表現も覚える。	①学校で音読の指導した後、ビデオをクラスルームにアップし、家庭でビデオを見ながら、音読ができるようにする。 ②授業で、語彙の指導を行った後に、家庭学習で活用する。
12	⑦音楽	本校の校歌を手話で表した映像教材	手話と字幕を同時に提示することで、歌詞の抽象的な表現を概念として理解しやすくする。	集会時や式典前の事前学習として、歌詞と手話の確認のため視聴する。また、タブレット端末に保存し、個々の進度に合わせて繰り返し練習する際の補助教材として使用している。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
13	⑦音楽	手話による国歌	デフリンピックを機に式典においては手話による国歌を活用するため	手話と指文字、文字情報を同一画面で提示することにより、手話による国歌の表現を練習する。
14	⑦音楽	手話付きの校歌	手話付きの校歌を覚えるため	音楽の授業や学級で使用している。職員の研修において、主に新転任の職員へ活用を促している。
15	⑦音楽	校歌等を手話で表した画像	校歌を歌唱と併せて手話で表現することにより、校歌の意味を理解したり、手話で表現する機会を増やす。	教員がこどもに校歌の手話を指導する際に画像を見る。こども達も画像を見ながら校歌の手話表現を確認する。
16	⑦音楽	校歌の手話表現	歌詞の意味理解とその表現	動画視聴
17	⑦音楽	校歌の歌詞を手話で表したイラスト教材	校歌の歌詞に出てくる語句の意味を理解し歌唱の際に、手話でも表現できるようにする	式典等の歌唱指導や音楽の教科指導において、教材として活用している。
18	⑦音楽	儀式や学校行事で使用する手話歌の映像教材	歌詞の意味を生徒が具体的に想起できるように、手話歌の映像を見せながら指導を行っている。	校歌や式歌、また新しく覚える歌などについて、作成した手話動画を活用し、歌詞に使われている言葉や意味の理解を促している。
19	⑦音楽	校歌を手話で表現した動画	校歌の正しい手話表現につなげる	動画を見ながら手話表現を確認する
20	⑦音楽	校歌を手話表現した映像	さまざまなコミュニケーションモードの児童に対応できる校歌にし、学校への愛着をもつことができるようにする。	主に音楽で映像を見ながら練習をする。式典等では代表児童が前に出て全校で歌唱をする。
21	⑦音楽	校歌や卒業式等で歌う歌について、音楽に合わせて教師が手話で歌うDVDの作成	校歌や歌の意味を理解し手話で表現できるようにする。	音楽の時間等で活用する。
22	⑦音楽	校歌の映像教材	校歌のリズムを視覚的にとらえると共に、映像から校歌の手話表現を学ぶ。	音楽の授業や自立活動、また日常生活の中で流し、手話表現を練習する。また、式典時にも流し、確認しながら歌えるように使用している。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
23	⑦音楽	校歌を歌いながら手話で表現している動画	校歌の歌詞の意味を学習する。 手話表現を統一して、校歌を斉唱する。	音楽の授業で校歌を歌う際、歌詞の意味を手話表現を見ることで理解できるようにする。 過去の本校生徒が思いを込めて考えた手話表現を学ぶことで、歌詞の意味を理解したうえで歌のイメージを映像的にふくらませて、校歌に込められた思いを感じられるようにする。 手話表現を統一することで、始業式、終業式等儀式的行事において儀式としての厳粛さを高める。
24	⑦音楽	応援ソングの手話表現	表現や曲を覚え、デフリンピック壮行会で選手たちに向けて歌うことで、応援する気持ちを表す。	音楽の授業の初めに映像を流しながら、みんなで歌い、手話表現に確認をする。
25	⑦音楽	校歌、市歌等を手話で表した画像・映像教材	皆で話し合い考えた手話表現を統一し、諸行事と一緒に歌うことで、一体感を味わう	画像や映像を作成し、音楽等の授業や学級等で練習できるようにしている。
26	⑦音楽	校歌斉唱で使用する手話の映像教材	映像をとおして校歌で使用する手話を学ぶ	校歌は日常的に斉唱しないため、表現を忘れること児童がおり、また、小学部低学年児童は手話に長けていない児童がいるため、映像教材を提示し、内容理解を促している。
27	⑦音楽	手話付きの校歌動画	校歌に対応した手話をつけることで、音声のみではなく、手話による歌詞の理解を促進するとともに、校歌の定着を促進する	幼稚部や小学部低学年の全幼児・児童を対象に校歌の指導に動画を併用する。
28	⑦音楽	校歌	校歌の意味を知り、学校への愛着やみんな一緒に歌うことでの連帯感をもつため。	幼児児童生徒に対して、校歌を手話で表した映像教材や紙面を提示し、内容理解を促している。
29	⑦音楽	校歌を手話で表現した映像	校歌の手話表現を学ぶ際の映像資料	校歌の手話表現を学ぶ際に映像を投影し、映像を観ながら動きを確認し表現する。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
30	⑦音楽	卒業式式歌を手話で表現した映像	卒業式式歌の手話表現を学ぶ際の映像資料	卒業式式歌の手話表現を学ぶ際に映像を投影し、映像を観ながら動きを確認し表現する。
31	⑦音楽	校歌の手話表現の動画	儀式的行事校歌斉唱で、指揮者として壇上に立つ生徒等の練習に使用 異動、新採で着任した教員の研修に使用	指揮者となった生徒の練習の際に使用、反転動画作成済み 年度当初の教員の打ち合わせの際に使用
32	⑦音楽	校歌の手話動画	校歌を音声だけでなく手話でも分かるようにする。指揮担当職員が代わっても、手話表現の揺れを生じさせずに円滑に引き継げるようにする。	音楽の授業及び儀式的行事などで動画を流し、動画の音声と手話に合わせて歌唱する。
33	⑦音楽	校歌を手話で表したイラスト・映像教材	校歌の歌詞の意味を確かめながら、正しい手話表現を覚えて歌う。	音楽の授業等で、特に初めて本校の校歌を覚える児童・生徒・職員に対して使用している。
34	⑦音楽	手話歌の動画	学習発表会や式典で使用する手話歌を動画で共有して、授業や学級で活用できるようにする。	タブレットに動画を入れ、音楽の授業や学級の朝の会等の時間に練習している。※本校の在籍は中・高等部のみである。
35	⑦音楽	歌の歌詞に手話のイラストをつけた掲示物	歌詞の意味を理解させる。	手話イラストを歌詞の横に付けて掲示し、歌詞の意味を理解し実際に手話をつけながら歌うために活用。
36	⑮特別活動	校歌、式歌等を手話で表した映像教材	歌詞や意味を知ること、歌に思いを寄せ心を込めて卒業生を送り出す	壇上のモニターで流す 式の前日まで、廊下の情報ボードでながす
37	⑮特別活動	標準服の投票の方法	自分の選んだ標準服の投票の仕方が分かる	投票の方法を手話で説明した動画を準備し、児童生徒朝会で動画を流して説明をした。
38	⑮特別活動	手話による交流会	クイズを交えて他校との交流会を行う。	手話が分かる学校の生徒が他校の生徒に向けて手話を交えて説明をする。
39	⑮特別活動	日常生活で使用する手話の映像教材	グーグルドライブに格納した手話動画で「今日の手話」を学習することで、手話語彙を増やすことができる。	朝の会やHR等の帯時間に使用する。学校生活、年中行事や季節にまつわる手話単語および日本手話特有の手話表現が動画視聴することでわかるようになっている。単語を使って例文作りの活動を行うこともできる。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
40	⑮特別活動	校歌（伴奏・歌）を手話で表現した映像	校歌（リズム）に合わせた手話表現の習得	就学した学年や、小学部を中心に儀式的行事の前等に校歌を練習する際に活用。
41	⑮特別活動	校歌、式歌を手話で表した動画に歌詞を字幕として付している	式典で手話を使用しながら歌えるようになる	音楽担当者、式歌担当者が不在の場面で練習する際に使用する 自習で使用する
42	⑯自立活動	感情の表現方法の手話と言葉を表示したカード	友達に自分の気持ちを伝えるための言葉や手話の習得	自分の気持ちを伝える際に視覚的な支援として使用
43	⑯自立活動	自己紹介を上手にするための手話のポイントを自己評価するシート	正しく手話表現するために意識するポイントを押さえ、手話による自己紹介の仕方を学ぶ。	児童に配り、シールや自筆により、自己評価をする。
44	⑯自立活動	手話のイラストつきの掲示物	手話表現があいまいな幼児児童生徒、教員に対して、手話の語彙数を増やし手話の活用を促す。	自立活動掲示板を各学部や職員室前に設置している。掲示板の一部のコーナーに掲示して手話の習得を目指す。
45	⑯自立活動	手話のしくみ教材	位置や方向などに気を付けて適切に表現し手話表現を正確にすることで、円滑なコミュニケーションを図れるようにする。	会話などで内容理解に役立つと思われる日本手話の文法の内、「かたち」「いち」「かず」「むき」に再分類した。各テーマ毎にイラストを見て手話表現を考えて伝える活動を行った。
46	⑯自立活動	手話のイラストを貼付したカード・掲示物	かな文字の習得段階にある幼稚部幼児や小学部低学年および重複児等に対して、文字だけでなく、手話のイラストを添えたカードを貼付することで理解を促す。	掲示物や展示物、絵日記、ことばじてん等の文字に手話のイラストを添えたカードを貼り付け、言葉の理解を促している。（幼稚部では、手書きの手話イラストを作っている。）

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
47	⑩自立活動	児童の手話習得を目的とした教材。	児童の聴覚活用の有無や実態に関わらず、すべての児童が手話を習得することを目的としたスライド教材。	<p>低学年の児童には、ゲーム的な要素を取り入れた活動を行い、中学年・高学年の児童に対しては、手話の基本的な文法を学ぶなど、児童の発達段階や集団構成に応じて指導内容を柔軟に設定するなどの工夫を行う。</p> <p>スライド教材一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本手話学習_グーチョキパー、動物の足クイズ ・日本手話学習_図形 ・日本手話学習_CL ・日本手話学習_色 ・日本手話学習_家族 ・日本手話学習_名前・サインネーム ・日本手話学習_数字 ・日本手話学習_カレンダー ・日本手話学習_時刻・1日の流れ ・日本手話学習_夏休み・冬休みについて ・日本手話学習_交通手段 ・日本手話学習_昔話 ・日本手話学習_空間表現、指差し、NMS等
48	⑩自立活動	手話のイラストを貼付したカード等	幼児児童生徒に対して、文字（指文字）と手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	掲示物に貼ったり、授業中にその単語を使うときに提示したりする。
49	⑩自立活動	手話表現の読み取りを補助するためのスライド	指導者の手話表現に合わせてスライド資料を提示することにより、幼児児童生徒が手話の読み取りを補完するとともに、手話表現の理解につなげる。	「全校しゅわっち」の活動に参加している幼児児童生徒に対し、活動内容に関わる視覚情報をスライドで提示し、内容理解や手話表現の理解につなげている。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
50	⑩自立活動	聴覚障害児・生に関わる様々な場面で身につけさせたい力を指導する際の書き込みドリル	1. 手話と日本語に親しむ 2. 生活の中で出てくる言葉を知る 3. 障害について理解を深める	必ず知ってほしい知識、子どもから表現してほしい内容、頭の中で思考の時に使ってほしい言葉、等を投げかけながらワークシートを進めていく。
51	⑩自立活動	手話イラストを添付した掲示物	かな文字の習得段階にある幼児に対し、絵と文字、手話イラストを併せて提示することで理解を促している。小学部児童に対する言葉に手話を合わせてカードを作成し、教室でも、語彙の拡充や定着を目的としている。	幼稚園では季節の事物に文字と手話イラストを合わせて貼付している。小学部では授業で扱った言葉に手話を合わせてカードを作成し、教室内に掲示している。
52	⑩自立活動	手話のイラストを貼付した掲示物	覚えてほしい言葉について、手話のイラストも貼付することで言葉の理解を促す。	小学部朝会において、学期に数回手話学習の時間を設けている。行事や学習に関わる手話表現を学部全員で確認することで、統一した正しい手話表現を覚える機会となっている。
53	⑩自立活動	手話イラストを貼付した司会のセリフカード	文字を読んで手話で表すことを学習中の児童が一人で司会を務めることができるようにする。	児童が輪番で担当している小学部朝会の司会を務める際、手話イラストをヒントに、自分で文字を読みながら話す時に使用している。覚えた部分は手話イラストを外していく。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
54	⑰①～⑰以外 の教科等	手話のイラストを貼付したワークシート	実態差のある児童の集団活動に当たり、文字だけではなく、手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	文字に手話のイラストを添えたワークシートを活用し、読み書きに実態差のある児童が理解しやすいようにしている。
55	⑰①～⑰以外 の教科等	GIGAスクール、ICT機器等で使用する用語の手話動画教材	GIGAスクール、ICT機器等の用語の手話知れるよう、手話動画を作成し、円滑な意思疎通の一助にしている。	日常会話ではあまり使われていない、GIGAスクールやICTに関する手話の新出用語を知る機会の一つになっている。
56	⑰①～⑰以外 の教科等	教科や行事等の名称とともに手話イラストを載せたカード 感想を表すカード	一日の流れを掴むとともに頑張ったことや楽しかったことを表現できるようにする。	朝の会で1日の流れを確認する際にカードを使っている。教師とともに一日の流れを手話で読んでいる。また、帰りの会でミニホワイトボードに「生活」で「色塗り」を「頑張りました」などの3つのカードを選んで貼り、それを提示しながらみんなの前で手話で発表させるようにしている。進んでカードを選び、発表できるようになってきた。
57	⑰①～⑰以外 の教科等	手話のイラストを貼付したカード	かな文字の習得段階にある児童に対して、文字だけではなく、手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	本校の小学部2年生、重複障がい学級に在籍する児童の学習活動に活用している。文章のポイントとなる単語に手話のイラストを添えたカードを作成している。児童はカードを確認しながら、助詞や接続詞を交えた文章表現を学習している。
58	⑰①～⑰以外 の教科等	絵本の手話での読み聞かせの映像	読むだけでは理解が難しい幼児児童生徒に対して、手話を付け加えることで内容を理解できるようにするため。	特別活動や読書タイムに活用。 保護者への手話の啓発にも活用可能かも。
59	⑱教科等の指導では活用していない	各学部の行事紹介、県内の有名な場所紹介、デフリンピックについて、病院で使う手話等の動画	①幼児児童生徒が様々な手話表現を知る機会を設ける、楽しみながら手話に触れる機会を増やす ②幼児児童生徒等やその保護者、および教職員の手話習得	廊下に設置したテレビで常時動画を上映。内容は週毎に変更。最初の3日間は字幕なし、後の2つ日間は字幕付き。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
60	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の手話表現ビデオ	儀式的行事等における校歌の手話表現の理解・習得	学級指導で活用
61	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や式歌	校歌や式歌を共通した手話表現で行うため	事前学習や式典の際に映像を流している。
62	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や行事等で使用する歌の手話動画	歌詞の内容理解及び手話表現の理解、活用等につなげる。	映像教材はどの学級でも視聴できるように保存しており、各学級や各学部でいつでも可能な時間に練習できるようにしている。
63	⑱教科等の指導では活用していない	絵本や本の紹介	読書週間の取組として、読書習慣の形成や主体的な読書活動の推進を図る。	図書室の一角にコーナーを設け、中・高等部の生徒が中心となって作成した動画を、図書館を利用する幼児児童生徒、保護者、教職員が誰でもいつでも視聴できるようにタブレットを設置し、活用した。
64	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の歌詞を手話表現したイラストを貼付した歌詞カード	校歌の手話表現を学ぶ際の歌詞カード	一斉での斉唱時に提示し表現を確認したり、繰り返しの練習に活用できるよう個別に配布し自主練習に取り組みせる。
65	(未回答)	給食の献立を手話で表した教材	献立の写真と手話を1つずつ確認することによって、給食時や日常生活の中で手話表現の理解、表出を促す	朝の会で献立を手話で示したワークシートに献立の写真をマッチングする時間を設けている。毎朝繰り返すことで実名と名称の一致を理解するとともに、手話の習得を促している。
66	(未回答)	文章に手話イラストをつけたプリント	手話を用いて文章や単語の意味を理解する	手話イラストで意味を確認しながら文章を読む。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
67	(未回答)	<p>デフフッドの視点を取り入れた授業実践 (令和4年度～令和6年度校内研究 子どもたちの「生きる力」の育成を目指して～デフフッドの視点を踏まえた授業実践 及びカリキュラム・マネジメントの検討～ を参照)</p>	<p>「デフフッド」とは、イギリスのパディ・ラッド博士が提起した概念であり、聴覚障がいのある方々をデフネス (deafness, 聴覚を失っている) という視点ではなく、言語としての手話を使う存在、聴者に劣ることなく「ありのままに生きる人」として存在する概念であり、この概念・視点を日々の授業や学校生活の中に取り入れる。</p>	<p>令和4年度～令和6年度校内研究 子どもたちの「生きる力」の育成を目指して～デフフッドの視点を踏まえた授業実践 及びカリキュラム・マネジメントの検討～ を参照</p>
68	(未回答)	<p>発表や聞き方の例の掲示物</p>	<p>発言のしかたやそれに対する反応のしかたを日本語と手話で示して、やり取りが深められるようにする。</p>	<p>教室前方に掲示、いつでも見て使えるようにしている。 「〇〇さんと同じです。」 「付け加えがありません。」 など反応の仕方を示している。横に手話のイラストがあるので、内容が分かりやすくなっている。児童らは、意識して発言できるようになってきている。</p>

④小学部中学年

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
1	①国語	教科書文を手話で表した映像教材	授業で教科書の文章を初読する前に、教科書文を手話で表した映像教材を見るようにし、おおまかなあらすじをつかむ。	本教材は、国語科等の物語文における登場人物の心情や情景をより深く理解できるようにすることを目的に活用している。主に授業の導入段階で物語の全体像を把握するために提示する。
2	①国語	覚えてほしい言葉や文章の手話表現と言葉を表示したシート	手話表現・言葉・動作の獲得	シートを見ながら手話表現、言葉、動作を行う。
3	①国語	身近な物の名前及びイラストと手話のイラストを描いたプリント	物の名前を覚えて、コミュニケーション力を高める。	小学部中学年の児童と一対一で手話を使ってやり取りをする中で出てきた物の名前を紙に書き、その手話もイラストにして描くことで記憶の定着を図る。
4	①国語	小4国語（光村図書）「一つの花」の教科書文を手話で表した映像教材。 ※段落ごとの詳細版	・教科書文を手話で表した映像教材を見ることで、おおまかなあらすじをつかむ。 ・児童の障害の状態等に関わらず、すべての児童が手話言語を習得するための教材として活用する。	単元の導入時に教科書文を手話で表した映像教材を提示し、内容理解を促している。また、映像教材はクラウド上にも保存し、校内の教員で共有することができる。
5	①国語	小4国語（光村図書）「ごんぎつね」の教科書文を手話で表した映像教材。 ※概要版	・教科書文を手話で表した映像教材を見ることで、おおまかなあらすじをつかむ。 ・児童の障害の状態等に関わらず、すべての児童が手話言語を習得するための教材として活用する。	単元の導入時に教科書文を手話で表した映像教材を提示し、内容理解を促している。また、映像教材はクラウド上にも保存し、校内の教員で共有することができる。
6	①国語	教科書文を手話で表した映像教材	教科書の文章を初読する前や単元途中の必要に応じ、教科書文を手話で表した映像教材を見て内容を把握したり確認したりする。	手話を主として使用している児童・生徒に対して、実態と教育的ニーズに合わせて教科書文を手話で表した映像教材を提示し、内容理解や確認をしている。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
7	①国語	物語文「ごんぎつね」の手話DVD	学習内容の理解促進	教材文を読み進めるにあたり、日本語での表現のみでは理解しづらい箇所を、手話表現も見ることで情景を豊かに想像しながら登場人物の心情を考える手立てとする。
8	①国語	手話を用いた絵本（教科書所収のものも含む）の読み聞かせ動画	読書活動の一環としてボランティアを依頼し読み聞かせを行なっている。読書量の増加や、幅広く本に親しむことを目的としているが、教科書で取り上げられている物語については、授業でも内容理解の深化を目的としている。	DVDに編集し、各学級での授業に活用できるようにしている。
9	②社会・地理歴史・公民	地図と手話のイラストを結び付けた学習シート	47都道府県名を文字と手話で覚える	未回答
10	⑦音楽	本校の校歌を手話で表した映像教材	手話と字幕を同時に提示することで歌詞の抽象的な表現を概念として理解しやすくする。	集会時や式典前の事前学習として、歌詞と手話の確認のため視聴する。また、タブレット端末に保存し、個々の進度に合わせて繰り返し練習する際の補助教材として使用している。
11	⑦音楽	手話による国歌	デフリンピックを機に式典においては手話による国歌を活用するため	手話と指文字、文字情報を同一画面で提示することにより、手話による国歌の表現を練習する。
12	⑦音楽	手話付きの校歌	手話付きの校歌を覚えるため	音楽の授業や学級で使用している。職員の研修において、主に新転任の職員へ活用を促している。
13	⑦音楽	校歌等を手話で表した画像	校歌を歌唱と併せて手話で表現することにより、校歌の意味を理解したり、手話で表現する機会を増やす。	教員がこどもに校歌の手話を指導する際に画像を見る。こども達も画像を見ながら校歌の手話表現を確認する。
14	⑦音楽	校歌の手話表現	歌詞の意味理解とその表現	動画視聴

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
15	⑦音楽	校歌の歌詞を手話で表したイラスト教材	校歌の歌詞に出てくる語句の意味を理解し、歌唱の際に、手話でも表現できるようにする	式典等の歌唱指導や音楽の教科指導において、教材として活用している。
16	⑦音楽	儀式や学校行事で使用する手話歌の映像教材	歌詞の意味を生徒が具体的に想起できるように、手話歌の映像を見せながら指導を行っている。	校歌や式歌、また新しく覚える歌などについて、作成した手話動画を活用し、歌詞に使われている言葉や意味の理解を促している。
17	⑦音楽	校歌を手話で表現した動画	校歌の正しい手話表現につなげる	動画を見ながら手話表現を確認する
18	⑦音楽	授業で歌う歌を手話で表した映像教材	歌詞の意味をとらえやすくする。	「手話+歌+字幕」の映像を流し、映像を見ながら歌う。手話の表現方法について考えさせる。
19	⑦音楽	校歌を手話表現した映像	さまざまなコミュニケーションモードの児童に対応できる校歌にし、学校への愛着をもつことができるようにする。	主に音楽で映像を見ながら練習をする。式典等では代表児童が前に出て全校で歌唱をする。
20	⑦音楽	校歌や卒業式等で歌う歌について、音楽に合わせて教師が手話で歌うDVDの作成	校歌や歌の意味を理解し手話で表現できるようにする。	音楽の時間等で活用する。
21	⑦音楽	校歌の映像教材	校歌のリズムを視覚的にとらえると共に、映像から校歌の手話表現を学ぶ。	音楽の授業や自立活動、また日常生活の中で流し、手話表現を練習する。また、式典時にも流し、確認しながら歌えるように使用している。
22	⑦音楽	校歌を歌いながら手話で表現している動画	校歌の歌詞の意味を学習する。手話表現を統一して、校歌を斉唱する。	音楽の授業で校歌を歌う際、歌詞の意味を手話表現を見ることで理解できるようにする。過去の本校生徒が思いを込めて考えた手話表現を学ぶことで、歌詞の意味を理解したうえで歌のイメージを映像的にふくらませて、校歌に込められた思いを感じられるようにする。手話表現を統一することで、始業式、終業式等儀式的行事において儀式としての厳粛さを高める。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
23	⑦音楽	応援ソングの手話表現	表現や曲を覚え、デフリンピック壮行会で選手たちに向けて歌うことで応援する気持ちを表す。	音楽の授業の初めに映像を流しながら、みんなで歌い、手話表現を確認をする。
24	⑦音楽	校歌、市歌等を手話で表した画像・映像教材	皆で話し合い考えた手話表現を統一し、諸行事で一緒に歌うことで、一体感を味わう。	画像や映像を作成し、音楽等の授業や学級等で練習できるようにしている。
25	⑦音楽	校歌斉唱で使用する手話の映像教材	映像をとおして校歌で使用する手話を学ぶ。	校歌は日常的に斉唱しないため、表現を忘れる児童がおり、また、小学部低学年児童は手話に長けていない児童がいるため、映像教材を提示し、内容理解を促している。
26	⑦音楽	手話付きの校歌動画	校歌に対応した手話をつけることで、音声のみではなく、手話による歌詞の理解を促進するとともに、校歌の定着を促進する	幼稚部や小学部低学年の全幼児・児童を対象に校歌の指導に動画を併用する。
27	⑦音楽	校歌	校歌の意味を知り、学校への愛着やみんな一緒に歌うことでの連帯感をもつため。	幼児児童生徒に対して、校歌を手話で表した映像教材や紙面を提示し、内容理解を促している。
28	⑦音楽	校歌を手話で表現した映像	校歌の手話表現を学ぶ際の映像資料	校歌の手話表現を学ぶ際に映像を投影し、映像を観ながら動きを確認し表現する。
29	⑦音楽	卒業式式歌を手話で表現した映像	卒業式式歌の手話表現を学ぶ際の映像資料	卒業式式歌の手話表現を学ぶ際に映像を投影し、映像を観ながら動きを確認し表現する。
30	⑦音楽	校歌の手話表現の動画	儀式的行事校歌斉唱で、指揮者として壇上に立つ生徒等の練習に使用 異動、新採で着任した教員の研修に使用	指揮者となった生徒の練習の際に使用、反転動画作成済み 年度当初の教員の打ち合わせの際に使用

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
31	⑦音楽	校歌の手話動画	校歌を音声だけでなく手話でも分かるようにする。指揮担当職員が代わっても、手話表現の揺れを生じさせずに円滑に引き継げるようにする。	音楽の授業及び儀式的行事などで動画を流し、動画の音声と手話に合わせて歌唱する。
32	⑦音楽	校歌を手話で表したイラスト・映像教材	校歌の歌詞の意味を確かめながら、正しい手話表現を覚えて歌う。	音楽の授業等で、特に初めて本校の校歌を覚える児童・生徒・職員に対して使用している。
33	⑦音楽	手話歌の動画	学習発表会や式典式典で使用用手話歌を動画で共有して、授業や学級で活用できるようにする。	タブレットに動画を入れ、音楽の授業や学級の朝の会等の時間に練習している。※本校の在籍は中・高等部のみである。
34	⑦音楽	歌の歌詞に手話のイラストをつけた掲示物	歌詞の意味を理解させる。	手話イラストを歌詞の横に付けて掲示し、歌詞の意味を理解し実際に手話をつけながら歌うために活用。
35	⑮特別活動	校歌、式歌等を手話で表した映像教材	歌詞や意味を知ること、歌に思いを寄せ心を込めて卒業生を送り出す	壇上のモニターで流す
36	⑮特別活動	標準服の投票の方法	自分の選んだ標準服の投票の仕方が分かる。	式の前日まで、廊下の情報ボードでながす 投票の方法を手話で説明した動画を準備し、児童生徒朝会で動画を流して説明をした。
37	⑮特別活動	手話による交流会	クイズを交えて他校との交流会を行う。	手話が分かる学校の生徒が他校の生徒に向けて手話を交えて説明をする。
38	⑮特別活動	日常生活で使用する手話の映像教材	グーグルドライブに格納した手話動画で「今日の手話」を学習することで、手話語彙を増やすことができる。	朝の会やHR等の帯時間に使用する。学校生活、年中行事や季節にまつわる手話単語および日本手話特有の手話表現が動画視聴することによってわかるようになっている。単語を使って例文作りの活動を行うこともできる。
39	⑮特別活動	校歌（伴奏・歌）を手話で表現した映像	校歌（リズム）に合わせた手話表現の習得	就学した学年や、小学部を中心に儀式的行事の前等に校歌を練習する際に活用。
40	⑮特別活動	校歌、式歌を手話で表した動画に歌詞を字幕として付している	式典で手話を使用しながら歌えるようになる	音楽担当者、式歌担当者が不在の場面で練習する際に使用する 自習で使用する

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
41	⑩自立活動	自己紹介を上手にするための手話のポイント而自己評価するシート	正しく手話表現するために意識するポイントを押さえ、手話による自己紹介の仕方を学ぶ。	児童に配り、シールや自筆により、自己評価をする。
42	⑩自立活動	手話のイラストつきの掲示物	手話表現があいまいな幼児児童生徒・教員に対して、手話の語彙数を増やし手話の活用を促す。	自立活動掲示板を各学部や職員室前に設置している。掲示板の一部のコーナーに掲示して手話の習得を目指す。
43	⑩自立活動	手話のしくみ教材	位置や方向などに気を付けて適切に表現し、手話表現を正確にすることで、円滑なコミュニケーションを図れるようにする。	会話などで内容理解に役立つと思われる日本手話の文法の内、「かたち」「いち」「かず」「むき」に再分類した。各テーマ毎にイラストを見て手話表現を考えて伝える活動を行った。
44	⑩自立活動	手話のイラストを貼付したカード・掲示物	かな文字の習得段階にある幼稚部幼児や小学部低学年および重複児等に対して、文字だけでなく、手話のイラストを添えたカードを貼付することで理解を促す。	掲示物や展示物、絵日記、ことばじてん等の文字に手話のイラストを添えたカードを貼り付け、言葉の理解を促している。（幼稚部では、手書きの手話イラストを作っている。）

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
45	⑩自立活動	児童の手話習得を目的とした教材。	児童の聴覚活用の有無や実態に関わらず、すべての児童が手話を習得することを目的としたスライド教材。	<p>低学年の児童には、ゲーム的な要素を取り入れた活動を行い、中学年・高学年の児童に対しては、手話の基本的な文法を学ぶなど、児童の発達段階や集団構成に応じて指導内容を柔軟に設定するなどの工夫を行う。</p> <p>スライド教材一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本手話学習_グーチョキパー、動物の足クイズ ・日本手話学習_図形 ・日本手話学習_CL ・日本手話学習_色 ・日本手話学習_家族 ・日本手話学習_名前・サインネーム ・日本手話学習_数字 ・日本手話学習_カレンダー ・日本手話学習_時刻・1日の流れ ・日本手話学習_夏休み・冬休みについて ・日本手話学習_交通手段 ・日本手話学習_昔話 ・日本手話学習_空間表現、指差し、NMS等
46	⑩自立活動	手話のイラストを貼付したカード等	幼児児童生徒に対して、文字（指文字）と手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	掲示物に貼ったり、授業中にその単語を使うときに提示したりする。
47	⑩自立活動	手話表現の読み取りを補助するためのスライド	指導者の手話表現に合わせてスライド資料を提示することにより、幼児児童生徒が手話の読み取りを補完するとともに、手話表現の理解につなげる。	「全校しゅわっち」の活動に参加している幼児児童生徒に対し、活動内容に関わる視覚情報をスライドで提示し、内容理解や手話表現の理解につなげている。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
48	⑩自立活動	日常生活で多く活用する手話や指文字の絵カード	手話と言葉と文字の理解につなげる	指導者が伝える際に合わせて提示する
49	⑩自立活動	聴覚障害児・生に関わる様々な場面で身につけさせたい力を指導する際の書き込みドリル	1. 手話と日本語に親しむ 2. 生活の中で出てくる言葉を知る 3. 障害について理解を深める	必ず知ってほしい知識、子どもから表現してほしい内容、頭の中で思考の時に使ってほしい言葉、等を投げかけながらワークシートを進めていく。
50	⑩自立活動	手話イラストを添付した掲示物	かな文字の習得段階にある幼児に対し、絵と文字、手話イラストを併せて提示することで理解を促している小学部児童に対しても、語彙の拡充や定着を目的としている。	幼稚部では季節の事物に文字と手話イラストを合わせて貼付している。小学部では授業で扱った言葉に手話を合わせてカードを作成し、教室内に掲示している。
51	⑩自立活動	手話のイラストを貼付した掲示物	覚えてほしい言葉について、手話のイラストも貼付することで言葉の理解を促す。	小学部朝会において、学期に数回手話学習の時間を設けている。行事や学習に関わる手話表現を学部全員で確認することで、統一した正しい手話表現を覚える機会となっている。
52	⑪①～⑩以外の教科等	手話のイラストを貼付したワークシート	実態差のある児童の集団活動に当たり、文字だけではなく、手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	文字に手話のイラストを添えたワークシートを活用し、読み書きに実態差のある児童が理解しやすいようにしている。
53	⑪①～⑩以外の教科等	GIGAスクール、ICT機器等で使用する用語の手話動画教材	GIGAスクール、ICT機器等の用語の手話を知れるよう、手話動画を作成し、円滑な意思疎通の一助にしている。	日常会話ではあまり使われていない、GIGAスクールやICTに関する手話の新出用語を知る機会の一つになっている。
54	⑪①～⑩以外の教科等	絵本の手話での読み聞かせの映像	読むだけでは理解が難しい幼児児童生徒に対して、手話を付け加えることで内容を理解できるようにするため。	特別活動や読書タイムに活用。保護者への手話の啓発にも活用可能かも。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
55	⑱教科等の指導では活用していない	各学部の行事紹介、県内の有名な場所紹介、デフリンピックについて、病院で使う手話等の動画	①幼児児童生徒が様々な手話表現を知る機会を設ける、楽しみながら手話に触れる機会を増やす ②幼児児童生徒等やその保護者、および教職員の手話習得	廊下に設置したテレビで常時動画を上映。内容は週毎に変更。最初の3日間は字幕なし、後の2日間は字幕付き。
56	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の手話表現ビデオ	儀式的行事等における校歌の手話表現の理解・習得	学級指導で活用
57	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や式歌	校歌や式歌を共通した手話表現で行うため	事前学習や式典の際に映像を流している。
58	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や行事等で使用する歌の手話動画	歌詞の内容理解及び手話表現の理解、活用等につなげる。	映像教材はどの学級でも視聴できるように保存しており、各学級や各学部でいつでも可能な時間に練習できるようにしている。
59	⑱教科等の指導では活用していない	絵本や本の紹介	読書週間の取組として、読書習慣の形成や主体的な読書活動の推進を図る。	図書室の一角にコーナーを設け、中・高等部の生徒が中心となって作成した動画を、図書館を利用する幼児児童生徒、保護者、教職員が誰でもいつでも視聴できるようにタブレットを設置し、活用した。
60	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の歌詞を手話表現したイラストを貼付した歌詞カード	校歌の手話表現を学ぶ際の歌詞カード	一斉での斉唱時に提示し表現を確認したり、繰り返しの練習に活用できるよう個別に配布し自主練習に取り組ませる。
61	未回答	給食の献立を手話で表した教材	献立の写真と手話を1つずつ確認することによって、給食時や日常生活の中で手話表現の理解、表出を促す	朝の会で献立を手話で示したワークシートに献立の写真のマッチングする時間を設けている。毎朝繰り返すことで実名と名称の一致を理解するとともに、手話の習得を促している。
62	未回答	文章に手話イラストをつけたプリント	手話を用いて文章や単語の意味を理解する。	手話イラストで意味を確認しながら文章を読む。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
63	未回答	デフフッドの視点を取り入れた授業実践 (令和4年度～令和6年度校内研究 子どもたちの「生きる力」の育成を目指して～デフフッドの視点を踏まえた授業実践 及び カリキュラム・マネジメントの検討～ を参照)	「デフフッド」とは、イギリスのパディ・ラッド博士が提起した概念であり、聴覚障がいのある方々をデフネス (deafness, 聴覚を失っている) という視点ではなく、言語としての手話を使う存在、聴者に劣ることなく「ありのままに生きる人」として存在する概念であり、この概念・視点を日々の授業や学校生活の中に取り入れる。	令和4年度～令和6年度校内研究 子どもたちの「生きる力」の育成を目指して～デフフッドの視点を踏まえた授業実践 及び カリキュラム・マネジメントの検討～ を参照
64	未回答	発表や聞き方の例の掲示物	発言のしかたやそれに対する反応のしかたを日本語と手話で示して、やり取りが深められるようにする。	教室前方に掲示、いつでも見て使えるようにしている。 「〇〇さんと同じです。」「付け加えがありません。」など反応の仕方を示している。横に手話のイラストがあるので、内容が分かりやすくなっている。児童らは、意識して発言できるようになってきている。

⑤小学部高学年

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
1	①国語	教科書文を手話で表した映像教材	授業で教科書の文章を初読する前に、教科書文を手話で表した映像教材を見るようにし、おおまかなあらすじをつかむ。	本教材は、国語科等の物語文における登場人物の心情や情景をより深く理解できるようにすることを目的に活用している。主に授業の導入段階で物語の全体像を把握するために提示する。
2	①国語	覚えてほしい言葉や文章の手話表現と言葉を表示したシート	手話表現・言葉・動作の獲得	シートを見ながら手話表現、言葉、動作を行う。
3	①国語	教科書文を手話で表した映像教材	教科書の文章を初読する前や単元途中の必要に応じ、教科書文を手話で表した映像教材を見て内容を把握したり確認したりする。	手話を主として使用している児童・生徒に対して、実態と教育的ニーズに合わせて教科書文を手話で表した映像教材を提示し、内容理解や確認をしている。
4	①国語	手話を用いた絵本（教科書所収のものも含む）の読み聞かせ動画	読書活動の一環としてボランティアを依頼し読み聞かせを行なっている。読書量の増加や、幅広く本に親しむことを目的としているが、教科書で取り上げられている物語については、授業でも内容理解の深化を目的としている。	DVDに編集し、各学級での授業に活用できるようにしている。
5	①国語	手話のイラストをつけたプリント・カード	手話と日本語をマッチングさせながら、日本語の理解を促す。	日常生活での出来事に出てきた言葉や、新しい言葉を学習するときに、児童と手話と日本語を確認しながら学習する。それをカードにし、学校生活の中で活用できるようにする。
6	②社会・地理歴史・公民	地図と手話のイラストを結び付けた学習シート	47都道府県名を文字と手話で覚える。	未回答
7	⑦音楽	本校の校歌を手話で表した映像教材	手話と字幕を同時に提示することで、歌詞の抽象的な表現を概念として理解しやすくする。	集会時や式典前の事前学習として、歌詞と手話の確認のため視聴する。また、タブレット端末に保存し、個々の進度に合わせて繰り返し練習する際の補助教材として使用している。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
8	⑦音楽	手話による国歌	デフリンピックを機に式典においては手話による国歌を活用するため	手話と指文字、文字情報を同一画面で提示することにより、手話による国歌の表現を練習する。
9	⑦音楽	手話付きの校歌	手話付きの校歌を覚えるため	音楽の授業や学級で使用している。職員の研修において、主に新転任の職員へ活用を促している。
10	⑦音楽	校歌等を手話で表した画像	校歌を歌唱と併せて手話で表現することにより、校歌の意味を理解したり、手話で表現する機会を増やす。	教員がこどもに校歌の手話を指導する際に画像を見る。こども達も画像を見ながら校歌の手話表現を確認する。
11	⑦音楽	校歌の手話表現	歌詞の意味理解とその表現	動画視聴
12	⑦音楽	校歌の歌詞を手話で表したイラスト教材	校歌の歌詞に出てくる語句の意味を理解し、歌唱の際に、手話でも表現できるようにする	式典等の歌唱指導や音楽の教科指導において、教材として活用している。
13	⑦音楽	儀式や学校行事で使用する手話歌の映像教材	歌詞の意味を生徒が具体的に想起できるように、手話歌の映像を見せながら指導を行っている。	校歌や式歌、また新しく覚える歌などについて、作成した手話動画を活用し、歌詞に使われている言葉や意味の理解を促している。
14	⑦音楽	校歌を手話で表現した動画	校歌の正しい手話表現につなげる	動画を見ながら手話表現を確認する
15	⑦音楽	授業で歌う歌を手話で表した映像教材	歌詞の意味をとらえやすくする。	「手話+歌+字幕」の映像を流し、映像を見ながら歌う。手話の表現方法について考えさせる。
16	⑦音楽	校歌を手話表現した映像	さまざまなコミュニケーションモードの児童に対応できる校歌にし、学校への愛着をもつことができるようにする。	主に音楽で映像を見ながら練習をする。式典等では代表児童が前に出て全校で歌唱をする。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
17	⑦音楽	校歌や卒業式等で歌う歌について、音楽に合わせて教師が手話で歌うDVDの作成	校歌や歌の意味を理解し手話で表現できるようにする。	音楽の時間等で活用する。
18	⑦音楽	校歌の映像教材	校歌のリズムを視覚的にとらえると共に、映像から校歌の手話表現を学ぶ。	音楽の授業や自立活動、また日常生活の中で流し、手話表現を練習する。また、式典時にも流し、確認しながら歌えるように使用している。
19	⑦音楽	校歌を歌いながら手話で表現している動画	校歌の歌詞の意味を学習する。手話表現を統一して、校歌を斉唱する。	音楽の授業で校歌を歌う際、歌詞の意味を手話表現を見ることで理解できるようにする。過去の本校生徒が思いを込めて考えた手話表現を学ぶことで、歌詞の意味を理解したうえで歌のイメージを映像的にふくらませて、校歌に込められた思いを感じられるようにする。手話表現を統一することで、始業式、終業式等儀式的行事において儀式としての厳粛さを高める。
20	⑦音楽	応援ソングの手話表現	表現や曲を覚え、デフリンピック壮行会で選手たちに向けて歌うことで、応援する気持ちを表す。	音楽の授業の初めに映像を流しながら、みんなで歌い、手話表現に確認をする。
21	⑦音楽	校歌、市歌等を手話で表した画像・映像教材	皆で話し合い考えた手話表現を統一し、諸行事で一緒に歌うことで、一体感を味わう。	画像や映像を作成し、音楽等の授業や学級等で練習できるようにしている。
22	⑦音楽	手話付きの校歌動画	校歌に対応した手話をつけることで、音声のみではなく、手話による歌詞の理解を促進するとともに、校歌の定着を促進する	幼稚部や小学部低学年の全幼児・児童を対象に校歌の指導に動画を併用する。
23	⑦音楽	校歌	校歌の意味を知り、学校への愛着やみんな一緒に歌うことでの連帯感をもつため。	幼児児童生徒に対して、校歌を手話で表した映像教材や紙面を提示し、内容理解を促している。
24	⑦音楽	校歌を手話で表現した映像	校歌の手話表現を学ぶ際の映像資料	校歌の手話表現を学ぶ際に映像を投影し、映像を観ながら動きを確認し表現する。
25	⑦音楽	卒業式式歌を手話で表現した映像	卒業式式歌の手話表現を学ぶ際の映像資料	卒業式式歌の手話表現を学ぶ際に映像を投影し、映像を観ながら動きを確認し表現する。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
26	⑦音楽	校歌の手話表現の動画	儀式的行事校歌斉唱で、指揮者として壇上に立つ生徒等の練習に使用 異動、新採で着任した教員の研修に使用	指揮者となった生徒の練習の際に使用、反転動画作成済み 年度当初の教員の打ち合わせの際に使用
27	⑦音楽	校歌の手話動画	校歌を音声だけでなく手話でも分かるようにする。指揮担当職員が代わっても、手話表現の揺れを生じさせずに円滑に引き継げるようにする。	音楽の授業及び儀式的行事などで動画を流し、動画の音声と手話に合わせて歌唱する。
28	⑦音楽	校歌を手話で表したイラスト・映像教材	校歌の歌詞の意味を確かめながら、正しい手話表現を覚えて歌う。	音楽の授業等で、特に初めて本校の校歌を覚える児童・生徒・職員に対して使用している。
29	⑦音楽	手話歌の動画	学習発表会や式典式典で使用する手話歌を動画で共有して、授業や学級で活用できるようにする。	タブレットに動画を入れ、音楽の授業や学級の朝の会等の時間に練習している。※本校の在籍は中・高等部のみである。
30	⑦音楽	歌の歌詞に手話のイラストをつけた掲示物	歌詞の意味を理解させる。	手話イラストを歌詞の横に付けて掲示し、歌詞の意味を理解し実際に手話をつけながら歌うために活用。
31	⑭総合的な学習（探究）の時間	調べ学習の発表原稿	中学部において、発表をするときに、手話のイラストを貼付した原稿を作成して理解を促す。	発表原稿の文字に合わせて、手話イラストを貼り付けする。それを見ながら、手話を覚えるとともに自信をもって発表できるように促す。
32	⑮特別活動	校歌、式歌等を手話で表した映像教材	歌詞や意味を知ること、歌に思いを寄せ心を込めて卒業生を送り出す	壇上のモニターで流す 式の前日まで、廊下の情報ボードでながす
33	⑮特別活動	標準服の投票の方法	自分の選んだ標準服の投票の仕方が分かる。	投票の方法を手話で説明した動画を準備し、児童生徒朝会で動画を流して説明をした。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
34	⑮特別活動	手話による交流会	クイズを交えて他校との交流会を行う。	手話分かる学校の生徒が他校の生徒に向けて手話を交えて説明をする。
35	⑮特別活動	日常生活で使用する手話の映像教材	グーグルドライブに格納した手話動画で「今日の手話」を学習することで、手話語彙を増やすことができる。	朝の会やHR等の帯時間に使用する。学校生活、年中行事や季節にまつわる手話単語および日本手話特有の手話表現が動画視聴することでわかるようになっている。単語を使って例文作りの活動を行うこともできる。
36	⑮特別活動	校歌（伴奏・歌）を手話で表現した映像	校歌（リズム）に合わせた手話表現の習得	就学した学年や、小学部を中心に儀式的行事の前等に校歌を練習する際に活用。
37	⑮特別活動	校歌、式歌を手話で表した動画に歌詞を字幕として付している	式典で手話を使用しながら歌えるようになる	音楽担当者、式歌担当者が不在の場面で練習する際に使用する 自習で使用する
38	⑯自立活動	自己紹介を上手にするための手話のポイントを自己評価するシート	正しく手話表現するために意識するポイントを押さえ、手話による自己紹介の仕方を学ぶ。	児童に配り、シールや自筆により、自己評価をする。
39	⑯自立活動	手話のイラストつきの掲示物	手話表現があいまいな幼児児童生徒、教員に対して、手話の語彙数を増やし手話の活用を促す。	自立活動掲示板を各学部や職員室前に設置している。掲示板の一部のコーナーに掲示して手話の習得を目指す。
40	⑯自立活動	手話のしくみ教材	位置や方向などに気を付けて適切に表現し、手話表現を正確にすることで、円滑なコミュニケーションを図れるようにする。	会話などで内容理解に役立つと思われる日本手話の文法の内、「かたち」「いち」「かず」「むき」に再分類した。各テーマ毎にイラストを見て手話表現を考えて伝える活動を行った。
41	⑯自立活動	手話のイラストを貼付したカード・掲示物	かな文字の習得段階にある幼稚部幼児や小学部低学年および重複児等に対して、文字だけでなく、手話のイラストを添えたカードを貼付することで理解を促す。	掲示物や展示物、絵日記、ことばじてん等の文字に手話のイラストを添えたカードを貼り付け、言葉の理解を促している。（幼稚部では、手書きの手話イラストを作っている。）

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
42	⑩自立活動	児童の手話習得を目的とした教材。	児童の聴覚活用の有無や実態に関わらず、すべての児童が手話を習得することを目的としたスライド教材。	<p>低学年の児童には、ゲーム的な要素を取り入れた活動を行い、中学年・高学年の児童に対しては、手話の基本的な文法を学ぶなど、児童の発達段階や集団構成に応じて指導内容を柔軟に設定するなどの工夫を行う。</p> <p>スライド教材一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本手話学習_グーチョキパー、動物の足クイズ ・日本手話学習_図形 ・日本手話学習_CL ・日本手話学習_色 ・日本手話学習_家族 ・日本手話学習_名前・サインネーム ・日本手話学習_数字 ・日本手話学習_カレンダー ・日本手話学習_時刻・1日の流れ ・日本手話学習_夏休み・冬休みについて ・日本手話学習_交通手段 ・日本手話学習_昔話 ・日本手話学習_空間表現、指差し、NMS等
43	⑩自立活動	手話のイラストを貼付したカード等	幼児児童生徒に対して、文字（指文字）と手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	掲示物に貼ったり、授業中にその単語を使うときに提示したりする。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。


項番	教科	内容	ねらい	使用方法
45	⑯自立活動	手話表現の読み取りを補助するためのスライド	指導者の手話表現に合わせてスライド資料を提示することにより、幼児児童生徒が手話の読み取りを補完するとともに、手話表現の理解につなげる。	「全校しゅわっち」の活動に参加している幼児児童生徒に対し、活動内容に関わる視覚情報をスライドで提示し、内容理解や手話表現の理解につなげている。
46	⑯自立活動	聴覚障害児・生に関わる様々な場面で身につけさせたい力を指導する際の書き込みドリル	1. 手話と日本語に親しむ 2. 生活の中で出てくる言葉を知る 3. 障害について理解を深める	必ず知ってほしい知識、子どもから表現してほしい内容、頭の中で思考の時に使ってほしい言葉、等を投げかけながらワークシートを進めていく。
47	⑯自立活動	手話イラストを添付した掲示物	かな文字の習得段階にある幼児に対し、絵と文字、手話イラストを併せて提示することで理解を促している。小学部児童に対しても、語彙の拡充や定着を目的としている。	幼稚部では季節の事物に文字と手話イラストを合わせて貼付している。小学部では授業で扱った言葉に手話を合わせてカードを作成し、教室内に掲示している。
48	⑯自立活動	手話のイラストを貼付した掲示物	覚えてほしい言葉について、手話のイラストも貼付することで言葉の理解を促す。	小学部朝会において、学期に数回手話学習の時間を設けている。行事や学習に関わる手話表現を学部全員で確認することで、統一した正しい手話表現を覚える機会となっている。
49	⑰①～⑯以外の教科等	手話のイラストを貼付したワークシート	実態差のある児童の集団活動に当たり、文字だけではなく、手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	文字に手話のイラストを添えたワークシートを活用し、読み書きに実態差のある児童が理解しやすいようにしている。
50	⑰①～⑯以外の教科等	GIGAスクール、ICT機器等で使用する用語の手話動画教材	GIGAスクール、ICT機器等の用語の手話を知れるよう、手話動画を作成し、円滑な意思疎通の一助にしている。	日常会話ではあまり使われていない、GIGAスクールやICTに関する手話の新出用語を知る機会の一つになっている。
51	⑰①～⑯以外の教科等	絵本の手話での読み聞かせの映像	読むだけでは理解が難しい幼児児童生徒に対して、手話を付け加えることで内容を理解できるようにするため。	特別活動や読書タイムに活用。保護者への手話の啓発にも活用可能かも。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
52	⑱教科等の指導では活用していない	各学部の行事紹介、県内の有名な場所紹介、デフリンピックについて、病院で使う手話等の動画	①幼児児童生徒が様々な手話表現を知る機会を設ける、楽しみながら手話に触れる機会を増やす ②幼児児童生徒等やその保護者、および教職員の手話習得	廊下に設置したテレビで常時動画を上映。内容は週毎に変更。最初の3日間は字幕なし、後の2つ日間は字幕付き。
53	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の手話表現ビデオ	儀式的行事等における校歌の手話表現の理解・習得	学級指導で活用
54	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や式歌	校歌や式歌を共通した手話表現で行うため	事前学習や式典の際に映像を流している。
55	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や行事等で使用する歌の手話動画	歌詞の内容理解及び手話表現の理解、活用等につなげる。	映像教材はどの学級でも視聴できるように保存しており、各学級や各学部でいつでも可能な時間に練習できるようにしている。
56	⑱教科等の指導では活用していない	絵本や本の紹介	読書週間の取組として、読書習慣の形成や主体的な読書活動の推進を図る。	図書室の一角にコーナーを設け、中・高等部の生徒が中心となって作成した動画を、図書館を利用する幼児児童生徒、保護者、教職員が誰でもいつでも視聴できるようにタブレットを設置し、活用した。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
57	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の歌詞を手話表現したイラストを貼付した歌詞カード	校歌の手話表現を学ぶ際の歌詞カード	一斉での斉唱時に提示し表現を確認したり、繰り返しの練習に活用できるよう個別に配布し自主練習に取り組ませる。
58	未回答	文章に手話イラストをつけたプリント	手話を用いて文章や単語の意味を理解する。	手話イラストで意味を確認しながら文章を読む。
59	未回答	デフフッドの視点を取り入れた授業実践 (令和4年度～令和6年度校内研究 子どもたちの「生きる力」の育成を目指して ～デフフッドの視点を踏まえた授業実践 及び カリキュラム・マネジメントの検討～ を参照)	「デフフッド」とは、イギリスのパディ・ラッド博士が提起した概念であり、聴覚障がいのある方々をデフネス (deafness, 聴覚を失っている) という視点ではなく、言語としての手話を使う存在、聴者に劣ることなく「ありのままに生きる人」として存在する概念であり、この概念・視点を日々の授業や学校生活の中に取り入れる。	令和4年度～令和6年度校内研究 子どもたちの「生きる力」の育成を目指して ～デフフッドの視点を踏まえた授業実践 及び カリキュラム・マネジメントの検討～ を参照
60	未回答	発表や聞き方の例の掲示物	発言のしかたやそれに対する反応のしかたを日本語と手話で示して、やり取りが深められるようにする。	教室前方に掲示、いつでも見て使えるようにしている。 「〇〇さんと同じです。」「付け加えががあります。」など反応の仕方を示している。横に手話のイラストがあるので、内容が分かりやすくなっている。児童らは、意識して発言できるようになってきている。



⑥ 中学部

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
1	①国語	覚えてほしい言葉や文章の手話表現と言葉を表示したシート	手話表現・言葉・動作の獲得	シートを見ながら手話表現、言葉、動作を行う。
2	①国語	抽象的な語句や新出語句を手話で説明した画像、映像教材	新出語句や重要語句を手話で説明した画像、映像を使うことで、手話も併せて覚えるとともに知識が定着しやすいようにする	手話辞典に載っていない語句を手話動画サイトで生徒に調べさせたり、教員が調べて提示したりする
3	①国語 ⑯自立活動	手話のイラストや写真を貼付したカード・プリント	文章中に使用されている言葉に手話のイラストや写真を添えることで、手話を主なコミュニケーションモードとする生徒が、学習活動の内容を正しく理解できるようにする。	手話を一緒に確認しながら使用することで、学習活動の内容を理解できるようにした。身近な教師や本人が手話表現している写真を使用することで、家庭においても保護者が本人と確認できるようにした。
4	①国語	教科書文を手話で表した映像教材	教科書の文章を初読する前や単元途中の必要に応じ、教科書文を手話で表した映像教材を見て内容を把握したり確認したりする。	手話を主として使用している児童・生徒に対して、実態と教育的ニーズに合わせて教科書文を手話で表した映像教材を提示し、内容理解や確認をしている。
5	②社会・地理歴史・公民	教科書に出てくる新たに触れる日本語に、手話のイラストを付ける。	日本語に概念もつけてきちんと理解し、活用できるようにするため	社会科の授業や教室の掲示などに使用する。
6	②社会・地理歴史・公民	都道府県名と手話表現をかけた掲示物	都道府県名と手話表現を並べて提示することで、地理で学習する内容の定着を図る。 都道府県の名前や場所を知ることによって、各地方に対する興味・関心を深める。	中学部の社会の授業において、日本について学習する際、その都道府県名と手話表現を覚えられるようにする。 指文字だけで都道府県名を表現するよりもその地方のイメージを強く想起できるように、また手話ニュース等を見たときにも理解できるように手話も併せて教えている。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
7	⑥英語・外国語活動	英単語表等	英単語に対応する日本語の意味を伝える	英単語表プリント等に手話画像を添える
8	⑦音楽	本校の校歌を手話で表した映像教材	手話と字幕を同時に提示することで、歌詞の抽象的な表現を概念として理解しやすくする。	集会時や式典前の事前学習として、歌詞と手話の確認のため視聴する。また、タブレット端末に保存し、個々の進度に合わせて繰り返し練習する際の補助教材として使用している。
9	⑦音楽	手話による国歌	デフリンピックを機に式典においては手話による国歌を活用するため	手話と指文字、文字情報を同一画面で提示することにより、手話による国歌の表現を練習する。
10	⑦音楽	手話付きの校歌	手話付きの校歌を覚えるため	音楽の授業や学級で使用している。職員の研修において、主に新転任の職員へ活用を促している。
11	⑦音楽	校歌等を手話で表した画像	校歌を歌唱と併せて手話で表現することにより、校歌の意味を理解したり、手話で表現する機会を増やす。	教員がこどもに校歌の手話を指導する際に画像を見る。こども達も画像を見ながら校歌の手話表現を確認する。
12	⑦音楽	校歌の手話表現	歌詞の意味理解とその表現	動画視聴
13	⑦音楽	校歌の歌詞を手話で表したイラスト教材	校歌の歌詞に出てくる語句の意味を理解し、歌唱の際に、手話でも表現できるようにする	式典等の歌唱指導や音楽の教科指導において、教材として活用している。
14	⑦音楽	儀式や学校行事で使用する手話歌の映像教材	歌詞の意味を生徒が具体的に想起できるよう、手話歌の映像を見せながら指導を行っている。	校歌や式歌、また新しく覚える歌などについて、作成した手話動画を活用し、歌詞に使われている言葉や意味の理解を促している。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
15	⑦音楽	校歌を手話で表現した動画	校歌の正しい手話表現につなげる	動画を見ながら手話表現を確認する
16	⑦音楽	校歌や卒業の歌の手話をイラストで表した紙面	歌を手話で表現しながら歌う	中学部では音楽、高等部では儀式的練習など、手話表現を確認しながら歌の練習を行っている。
17	⑦音楽	校歌や卒業式等で歌う歌について、音楽に合わせて教師が手話で歌うDVDの作成	校歌や歌の意味を理解し手話で表現できるようにする。	音楽の時間等で活用する。
18	⑦音楽	校歌の映像教材	校歌のリズムを視覚的にとらえると共に、映像から校歌の手話表現を学ぶ。	音楽の授業や自立活動、また日常生活の中で流し、手話表現を練習する。また、式典時にも流し、確認しながら歌えるように使用している。
19	⑦音楽	校歌を歌いながら手話で表現している動画	校歌の歌詞の意味を学習する。手話表現を統一して、校歌を斉唱する。	音楽の授業で校歌を歌う際、歌詞の意味を手話表現を見ることで理解できるようにする。過去の本校生徒が思いを込めて考えた手話表現を学ぶことで、歌詞の意味を理解したうえで歌のイメージを映像的にふくらませて、校歌に込められた思いを感じられるようにする。手話表現を統一することで、始業式、終業式等儀式的行事において儀式としての厳粛さを高める。
20	⑦音楽	応援ソングの手話表現	表現や曲を覚え、デフリンピック壮行会で選手たちに向けて歌うことで、応援する気持ちを表す。	音楽の授業の初めに映像を流しながら、みんなで歌い、手話表現を確認をする。
21	⑦音楽	校歌、市歌等を手話で表した画像・映像教材	皆で話し合い考えた手話表現を統一し、諸行事で一緒に歌うことで、一体感を味わう。	画像や映像を作成し、音楽等の授業や学級等で練習できるようにしている。
22	⑦音楽	手話付きの校歌動画	校歌に対応した手話をつけることで、音声のみではなく、手話による歌詞の理解を促進するとともに、校歌の定着を促進する	幼稚部や小学部低学年の全幼児・児童を対象に校歌の指導に動画を併用する。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
23	⑦音楽	校歌	校歌の意味を知り、学校への愛着やみんな一緒に歌うことでの連帯感をもつため。	幼児児童生徒に対して、校歌を手話で表した映像教材や紙面を提示し、内容理解を促している。
24	⑦音楽	校歌を手話で表現した映像	校歌の手話表現を学ぶ際の映像資料	校歌の手話表現を学ぶ際に映像を投影し、映像を観ながら動きを確認し表現する。
25	⑦音楽	卒業式式歌を手話で表現した映像	卒業式式歌の手話表現を学ぶ際の映像資料	卒業式式歌の手話表現を学ぶ際に映像を投影し、映像を観ながら動きを確認し表現する。
26	⑦音楽	校歌の手話表現の動画	儀式的行事校歌斉唱で、指揮者として壇上に立つ生徒等の練習に使用 異動、新採で着任した教員の研修に使用	指揮者となった生徒の練習の際に使用、反転動画作成済み 年度当初の教員の打ち合わせの際に使用
27	⑦音楽	校歌の手話動画	校歌を音声だけでなく手話でも分かるようにする。指揮担当職員が代わっても、手話表現の揺れを生じさせずに円滑に引き継げるようにする。	音楽の授業及び儀式的行事などで動画を流し、動画の音声と手話に合わせて歌唱する。
28	⑦音楽	校歌を手話で表したイラスト・映像教材	校歌の歌詞の意味を確かめながら、正しい手話表現を覚えて歌う。	音楽の授業等で、特に初めて本校の校歌を覚える児童・生徒・職員に対して使用している。
29	⑦音楽	手話歌の動画	学習発表会や式典式典で使用する手話歌を動画で共有して、授業や学級で活用できるようにする。	タブレットに動画を入れ、音楽の授業や学級の朝の会等の時間に練習している。※本校の在籍は中・高等部のみである。
30	⑦音楽	歌の歌詞に手話のイラストをつけた掲示物	歌詞の意味を理解させる。	手話イラストを歌詞の横に付けて掲示し、歌詞の意味を理解し実際に手話をつけながら歌うために活用。
31	⑭総合的な学習(探究)の時間	調べ学習の発表原稿	中学部において、発表をするときに、手話のイラストを貼付した原稿を作成して理解を促す。	発表原稿の文字に合わせて、手話イラストを貼り付けする。それを見ながら、手話を覚えるとともに自信をもって発表できるように促す。
32	⑮特別活動	校歌、式歌等を手話で表した映像教材	歌詞や意味を知ること、歌に思いを寄せ心を込めて卒業生を送り出す	壇上のモニターで流す 式の前日まで、廊下の情報ボードでながす

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
33	⑮特別活動	標準服の投票の方法	自分の選んだ標準服の投票の仕方が分かる。	投票の方法を手話で説明した動画を準備し、児童生徒朝会で動画を流して説明をした。
34	⑮特別活動	掲示物への手話表現の添付教材	手話表現を添付することで、会話をする際の語彙力・言語力・コミュニケーション向上へつなげる	○生徒会選挙に関わる告示に使用 中学部全員が内容を理解して選挙に関わることができるようになっている。 手話表現を添付することで言葉の理解を促し、内容理解へつなげる。
35	⑮特別活動	手話による交流会	クイズを交えて他校との交流会を行う。	手話分かる学校の生徒が他校の生徒に向けて手話を交えて説明をする。
36	⑮特別活動	学部行事で使用する手話の画像	・学部で共通した手話を称する。 ・生徒の言語獲得	教室やホールに掲示する。
37	⑮特別活動	日常生活で使用する手話の映像教材	グーグルドライブに格納した手話動画で「今日の手話」を学習することで、手話語彙を増やすことができる。	朝の会やHR等の帯時間に使用する。学校生活、年中行事や季節にまつわる手話単語および日本手話特有の手話表現が動画視聴することでわかるようになっている。単語を使って例文作りの活動を行うこともできる。
38	⑮特別活動	校歌（伴奏・歌）を手話で表現した映像	校歌（リズム）に合わせた手話表現の習得	就学した学年や、小学部を中心に儀式的行事の前等に校歌を練習する際に活用。
39	⑮特別活動	校歌、式歌を手話で表した動画に歌詞を字幕として付している	式典で手話を使用しながら歌えるようになる	音楽担当者、式歌担当者が不在の場面で練習する際に使用する 自習で使用する
40	⑯自立活動	空所を含む会話文	きこえの自己理解を促進し、手話等の情報保障の必要性について考える	音声、手話、文字情報等を提示し、空所部分を埋めるのに自分にとってどのような情報が必要かを考える
41	⑯自立活動	パワーポイントによる語彙リストや会話文例	手話による語彙の拡充、手話を使ったコミュニケーション活動	ペア・グループでの手話をういたコミュニケーション活動に使用
42	⑯自立活動	未回答	未回答	未回答
43	⑯自立活動	手話のイラストつきの掲示物	手話表現があいまいな幼児児童生徒、教員に対して、手話の語彙数を増やし手話の活用を促す。	自立活動掲示板を各学部や職員室前に設置している。掲示板の一部のコーナーに掲示して手話の習得を目指す。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
44	⑩自立活動	手話のイラストを貼付したカード等	幼児児童生徒に対して、文字（指文字）と手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	掲示物に貼ったり、授業中にその単語を使うときに提示したりする。
45	⑩自立活動	手話表現の読み取りを補助するためのスライド	指導者の手話表現に合わせてスライド資料を提示することにより、幼児児童生徒が手話の読み取りを補完するとともに、手話表現の理解につなげる。	「全校しゅわっち」の活動に参加している幼児児童生徒に対し、活動内容に関わる視覚情報をスライドで提示し、内容理解や手話表現の理解につなげている。
46	⑩自立活動	日常生活で多く活用する手話や指文字の絵カード	手話と言葉と文字の理解につなげる	指導者が伝える際に合わせて提示する
47	⑩自立活動	長文、短文を手話や口話等を併用した表現映像から、自分が理解しやすいコミュニケーション手段を知る学習。	長文、短文を伝える際の手段について学ぶ（手話で表現・口話で表現した映像から、自分が理解しやすいコミュニケーション手段を確認する。）	口話のみ、手話と口話の併用、手話のみの映像から、伝わりやすい表現方法を学んだり、生徒自身にとって自分に合ったコミュニケーション手段を確認する。
48	⑩自立活動	聴覚障害児・生に関わる様々な場面で身につけさせたい力を指導する際の書き込みドリル	1. 手話と日本語に親しむ 2. 生活の中で出てくる言葉を知る 3. 障害について理解を深める	必ず知ってほしい知識、子どもから表現してほしい内容、頭の中で思考の時に使ってほしい言葉、等を投げかけながらワークシートを進めていく。
49	⑪①～⑩以外の教科等	GIGAスクール、ICT機器等で使用する用語の手話動画教材	GIGAスクール、ICT機器等の用語の手話を知れるよう、手話動画を作成し、円滑な意思疎通の一助にしている。	日常会話ではあまり使われていない、GIGAスクールやICTに関する手話の新出用語を知る機会の一つになっている。
50	⑪①～⑩以外の教科等	絵本の手話での読み聞かせの映像	読むだけでは理解が難しい幼児児童生徒に対して、手話を付け加えることで内容を理解できるようにするため。	特別活動や読書タイムに活用。保護者への手話の啓発にも活用可能かも。
51	⑫教科等の指導では活用していない	各学部の行事紹介、県内の有名な場所紹介、デフリンピックについて、病院で使う手話等の動画	①幼児児童生徒が様々な手話表現を知る機会を設ける、楽しみながら手話に触れる機会を増やす ②幼児児童生徒等やその保護者、および教職員の手話習得	廊下に設置したテレビで常時動画を上映。内容は週毎に変更。最初の3日間は字幕なし、後の2日間は字幕付き。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
52	⑱教科等の指導では活用していない	手話新聞からの切り抜きの手話カード集	手話理解、手話力向上	分からない手話があったときにカードを見て確認する
53	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の手話表現ビデオ	儀式的行事等における校歌の手話表現の理解・習得	学級指導で活用
54	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や式歌	校歌や式歌を共通した手話表現で行うため	事前学習や式典の際に映像を流している。
55	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や行事等で使用する歌の手話動画	歌詞の内容理解及び手話表現の理解、活用等につなげる。	映像教材はどの学級でも視聴できるように保存しており、各学級や各学部でいつでも可能な時間に練習できるようにしている。
56	⑱教科等の指導では活用していない	絵本や本の紹介	読書週間の取組として、読書習慣の形成や主体的な読書活動の推進を図る。	図書室の一角にコーナーを設け、中・高等部の生徒が中心となって作成した動画を、図書館を利用する幼児児童生徒、保護者、教職員が誰でもいつでも視聴できるようにタブレットを設置し、活用した。
57	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の歌詞を手話表現したイラストを貼付した歌詞カード	校歌の手話表現を学ぶ際の歌詞カード	一斉での斉唱時に提示し表現を確認したり、繰り返しの練習に活用できるよう個別に配布し自主練習に取り組ませる。
58	⑱教科等の指導では活用していない	朝のお話の中から覚えて欲しい手話の画像をワープロソフトで作成。掲示板に貼るための日常生活で活用できる言葉に手話のイラストをつけて掲示。	言葉の獲得がまだまだ年齢に追いついていない生徒の語彙数を増やすため。	作成した掲示物を教室壁面や廊下などに掲示し、常に目にすることができるようにする。
59	未回答	発表や聞き方の例の掲示物	発言のしかたやそれに対する反応のしかたを日本語と手話で示して、やり取りが深められるようにする。	教室前方に掲示、いつでも見て使えるようにしている。「〇〇さんと同じです。」「付け加えがあります。」など反応の仕方を示している。横に手話のイラストがあるので、内容が分かりやすくなっている。児童らは、意識して発言できるようになってきている。

⑦高等部本科

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
1	①国語	覚えてほしい言葉や文章の手話表現と言葉を表示したシート	手話表現・言葉・動作の獲得	シートを見ながら手話表現、言葉、動作を行う。
2	①国語	最近のニュースを紹介する	文字情報だけでは分かりにくい部分を補足するため	小論文で自分の意見を考える練習として、ニュースの内容を読んで理解する
3	⑦音楽	手話付きの校歌	手話付きの校歌を覚えるため	音楽の授業や学級で使用している。職員の研修において、主に新転任の職員へ活用を促している。
4	⑦音楽	校歌の手話表現	歌詞の意味理解とその表現	動画視聴
5	⑦音楽	校歌の歌詞を手話で表したイラスト教材	校歌の歌詞に出てくる語句の意味を理解し、歌唱の際に、手話でも表現できるようにする	式典等の歌唱指導や音楽の教科指導において、教材として活用している。
6	⑦音楽	儀式や学校行事で使用する手話歌の映像教材	歌詞の意味を生徒が具体的に想起できるように、手話歌の映像を見せながら指導を行っている。	校歌や式歌、また新しく覚える歌などについて、作成した手話動画を活用し、歌詞に使われている言葉や意味の理解を促している。
7	⑦音楽	校歌や卒業の歌の手話をイラストで表した紙面	歌を手話で表現しながら歌う	中学部では音楽、高等部では儀式の練習など、手話表現を確認しながら歌の練習を行っている。
8	⑦音楽	校歌の映像教材	校歌のリズムを視覚的にとらえると共に、映像から校歌の手話表現を学ぶ。	音楽の授業や自立活動、また日常生活の中で流し、手話表現を練習する。また、式典時にも流し、確認しながら歌えるように使用している。
9	⑦音楽	校歌を歌いながら手話で表現している動画	校歌の歌詞の意味を学習する。手話表現を統一して、校歌を斉唱する。	音楽の授業で校歌を歌う際、歌詞の意味を手話表現を見ることで理解できるようにする。過去の本校生徒が思いを込めて考えた手話表現を学ぶことで、歌詞の意味を理解したうえで歌のイメージを映像的にふくらませて、校歌に込められた思いを感じられるようにする。手話表現を統一することで、始業式、終業式等儀式的行事において儀式としての厳粛さを高める。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
10	⑦音楽	応援ソングの手話表現	表現や曲を覚え、デフリンピック壮行会で選手たちに向けて歌うことで、応援する気持ちを表す。	音楽の授業の初めに映像を流しながら、みんなで歌い、手話表現を確認をする。
11	⑦音楽	校歌、市歌等を手話で表した画像・映像教材	皆で話し合い考えた手話表現を統一し、諸行事で一緒に歌うことで、一体感を味わう。	画像や映像を作成し、音楽等の授業や学級等で練習できるようにしている。
12	⑦音楽	手話付きの校歌動画	校歌に対応した手話をつけることで、音声のみではなく、手話による歌詞の理解を促進するとともに、校歌の定着を促進する	幼稚部や小学部低学年の全幼児・児童を対象に校歌の指導に動画を併用する。
13	⑦音楽	校歌の手話表現の動画	儀式的行事校歌斉唱で、指揮者として壇上に立つ生徒等の練習に使用 異動、新採で着任した教員の研修に使用	指揮者となった生徒の練習の際に使用、反転動画作成済み 年度当初の教員の打ち合わせの際に使用
14	⑦音楽	校歌の手話動画	校歌を音声だけでなく手話でも分かるようにする。指揮担当職員が代わっても、手話表現の揺れを生じさせずに円滑に引き継げるようにする。	音楽の授業及び儀式的行事などで動画を流し、動画の音声と手話に合わせて歌唱する。
15	⑦音楽	校歌を手話で表したイラスト・映像教材	校歌の歌詞の意味を確かめながら、正しい手話表現を覚えて歌う。	音楽の授業等で、特に初めて本校の校歌を覚える児童・生徒・職員に対して使用している。
16	⑦音楽	手話歌の動画	学習発表会や式典式典で使用 手話歌を動画で共有して、授業や学級で活用できるようにする。	タブレットに動画を入れ、音楽の授業や学級の朝の会等の時間に練習している。※本校の在籍は中・高等部のみである。
17	⑦音楽	歌の歌詞に手話のイラストをつけた掲示物	歌詞の意味を理解させる。	手話イラストを歌詞の横に付けて掲示し、歌詞の意味を理解し実際に手話をつけながら歌うために活用。
18	⑨体育・保健体育	自立活動研修部が掲示している手話の紙媒体資料	新しくできた手話を伝えつつ、時事問題を絡めながらこれからの生活に生かせるようにするため	保健の授業において、「マイナ保険証」などの手話と語句を一致できるようにする

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
19	⑫情報	授業で使用する単語（日本語）と手話単語	新出単語を覚え、一緒に手話単語も覚える	新出語句と手話単語を視覚的に提示し、新出語句を覚える。
20	⑮特別活動	校歌、式歌等を手話で表した映像教材	歌詞や意味を知ること、歌に思いを寄せ心を込めて卒業生を送り出す	壇上のモニターで流す式の前日まで、廊下の情報ボードでながす
21	⑮特別活動	手話による交流会	クイズを交えて他校との交流会を行う。	手話ができる学校の生徒が他校の生徒に向けて手話を交えて説明をする。
22	⑮特別活動	日常生活で使用する手話の映像教材	グーグルドライブに格納した手話動画で「今日の手話」を学習することで、手話語彙を増やすことができる。	朝の会やHR等の帯時間に使用する。学校生活、年中行事や季節にまつわる手話単語および日本手話特有の手話表現が動画視聴することでわかるようになっている。単語を使って例文作りの活動を行うこともできる。
23	⑮特別活動	校歌（伴奏・歌）を手話で表現した映像	校歌（リズム）に合わせた手話表現の習得	就学した学年や、小学部を中心に儀式的行事の前等に校歌を練習する際に活用。
24	⑮特別活動	校歌、式歌を手話で表した動画に歌詞を字幕として付している	式典で手話を使用しながら歌えるようになる	音楽担当者、式歌担当者が不在の場面で練習する際に使用する 自習で使用する
25	⑯自立活動	日本語に手話ラベル文（手話単語を並べて表記した文）を並べて表記したカード	手話の文法や表現方法を学びやすくする	日本語に対して、生徒がより分かりやすい手話表現を考え、聴覚障害を有する講師が確認・助言した内容を手話ラベル文として表記したカードを廊下に提示している
26	⑯自立活動			
27	⑯自立活動	手話の画像を貼付したプリント	手話で理解している語彙と書記日本語を結びつける	書記日本語に読み仮名のように手話画像を貼付する（行事のしおりや作業手順等）。書記日本語を記入するプリントに同じ意味の手話イラストを貼付する。
28	⑯自立活動	手話のイラストつきの掲示物	手話表現があいまいな幼児児童生徒、教員に対して、手話の語彙数を増やし手話の活用を促す。	自立活動掲示板を各学部や職員室前に設置している。掲示板の一部のコーナーに掲示して手話の習得を目指す。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
29	⑯自立活動	手話単語及び手話文法の読み取り	生徒の手話力の確認	手話の動画を見て読み取りシートに記入する
30	⑯自立活動	職場で用いられる挨拶や報告の言葉を、日本語と手話を併記したプリント	職場実習で職場の人たちに、どのような挨拶をするとよいのかを知り実践することができるようになる。	高等部の重複障害学級の生徒を対象に、挨拶や「終わりました」など報告の際に使われる言葉をプリントにまとめ、手話でも表現できるようにイラストを添えた資料を作成している。 職場実習に出る前の事前指導で、どのような言葉を使って挨拶をすると失礼ではないのか、報告する際にどのような言葉を使う必要があるのかを学習し、ロールプレイをしながら身に付けられるようにする。
31	⑯自立活動	手話のイラストを貼付したカード等	幼児児童生徒に対して、文字（指文字）と手話のイラストを貼付することによって理解を促す。	掲示物に貼ったり、授業中にその単語を使うときに提示したりする。
32	⑯自立活動	聴覚障害児・生に関わる様々な場面で身につけさせたい力を指導する際の書き込みドリル	1. 手話と日本語に親しむ 2. 生活の中で出てくる言葉を知る 3. 障害について理解を深める	必ず知ってほしい知識、子どもから表現してほしい内容、頭の中で思考の時に使ってほしい言葉、等を投げかけながらワークシートを進めていく。
33	⑰①～⑯以外の教科等	GIGAスクール、ICT機器等で使用する用語の手話動画教材	GIGAスクール、ICT機器等の用語の手話を知れるよう、手話動画を作成し、円滑な意思疎通の一助にしている。	日常会話ではあまり使われていない、GIGAスクールやICTに関する手話の新出用語を知る機会の一つになっている。
34	⑰①～⑯以外の教科等	絵本の手話での読み聞かせの映像	読むだけでは理解が難しい幼児児童生徒に対して、手話を付け加えることで内容を理解できるようにするため。	特別活動や読書タイムに活用。 保護者への手話の啓発にも活用可能かも。

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
35	⑱教科等の指導では活用していない	各学部の行事紹介、県内の有名な場所紹介、デフリンピックについて、病院で使う手話等の動画	①幼児児童生徒が様々な手話表現を知る機会を設ける、楽しみながら手話に触れる機会を増やす ②幼児児童生徒等やその保護者、および教職員の手話習得	廊下に設置したテレビで常時動画を上映。内容は週毎に変更。最初の3日間は字幕なし、後の2日間は字幕付き。
36	⑱教科等の指導では活用していない	手話新聞からの切り抜きの手話カード集	手話理解、手話力向上	分からない手話があったときにカードを見て確認する
37	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の手話動画（生徒がモデルで手話表現している。）	儀式や全校集会等で校歌を歌唱する際の手話表現を習得する。	音楽の授業が設定されていないので、休み時間等で各自、あるいは学級・学年で視聴。
38	⑱教科等の指導では活用していない	生徒会役員の生徒が、行事等に係る手話の動画を作成し、全校生徒、職員が見ることができるデジタルサイネージで流している。	手話についての知識を身に付ける。	校内の廊下を通りながら、気楽に手話の学習をする。
39	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や式歌	校歌や式歌を共通した手話表現で行うため	事前学習や式典の際に映像を流している。
40	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の手話DVD	校歌の手話習得	DVDを見ながら校歌の手話を勉強している。
41	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の歌詞を手話のイラスト付きで作成している	新任の職員や新入生が手話付きで校歌が歌えるようにするため。	新任者研修や入学式・卒業式の前に児童生徒にも配布して練習するが、児童生徒はすぐに覚える。
42	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や行事等で使用する歌の手話動画	歌詞の内容理解及び手話表現の理解、活用等につなげる。	映像教材はどの学級でも視聴できるように保存しており、各学級や各学部でいつでも可能な時間に練習できるようにしている。
43	⑱教科等の指導では活用していない	絵本や本の紹介	読書週間の取組として、読書習慣の形成や主体的な読書活動の推進を図る。	図書室の一角にコーナーを設け、中・高等部の生徒が中心となって作成した動画を、図書館を利用する幼児児童生徒、保護者、教職員が誰でもいつでも視聴できるようにタブレットを設置し、活用した。

⑧高等部専攻科

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
1	⑦音楽	儀式や学校行事で使用する手話歌の映像教材	歌詞の意味を生徒が具体的に想起できるよう、手話歌の映像を見せながら指導を行っている。	校歌や式歌、また新しく覚える歌などについて、作成した手話動画を活用し、歌詞に使われている言葉や意味の理解を促している。
2	⑦音楽	応援ソングの手話表現	表現や曲を覚え、デフリンピック壮行会で選手たちに向けて歌うことで、応援する気持ちを表す。	音楽の授業の初めに映像を流しながら、みんなで歌い、手話表現に確認をする。
3	⑦音楽	手話付きの校歌動画	校歌に対応した手話をつけることで、音声のみではなく、手話による歌詞の理解を促進するとともに、校歌の定着を促進する	幼稚部や小学部低学年の全幼児・児童を対象に校歌の指導に動画を併用する。
4	⑦音楽	校歌の手話表現の動画	儀式的行事校歌斉唱で、指揮者として壇上に立つ生徒等の練習に使用 異動、新採で着任した教員の研修に使用	指揮者となった生徒の練習の際に使用、 反転動画作成済み 年度当初の教員の打ち合わせの際に使用
5	⑦音楽	校歌の手話動画	校歌を音声だけでなく手話でも分かるようにする。指揮担当職員が代わっても、手話表現の揺れを生じさせずに円滑に引き継げるようにする。	音楽の授業及び儀式的行事などで動画を流し、動画の音声と手話に合わせて歌唱する。
6	⑮特別活動	校歌、式歌等を手話で表した映像教材	歌詞や意味を知ること、歌に思いを寄せ心を込めて卒業生を送り出す	壇上のモニターで流す 式の前日まで、廊下の情報ボードでながす
7	⑮特別活動	校歌（伴奏・歌）を手話で表現した映像	校歌（リズム）に合わせた手話表現の習得	就学した学年や、小学部を中心に儀式的行事の前等に校歌を練習する際に活用。
8	⑯自立活動	手話単語及び手話文法の読み取り	生徒の手話力の確認	手話の動画を見て読み取りシートに記入する

- 対象ごとに各教材の教科、使用方法、ねらい、内容について整理。

項番	教科	内容	ねらい	使用方法
9	⑱教科等の指導では活用していない	校歌の手話動画（生徒がモデルで手話表現している。）	儀式や全校集会等で校歌を歌唱する際の手話表現を習得する。	音楽の授業が設定されていないので、休み時間等で各自、あるいは学級・学年で視聴。
10	⑱教科等の指導では活用していない	生徒会役員の生徒が、行事等に係る手話の動画を作成し、全校生徒、職員が見ることができるデジタルサイネージで流している。	手話についての知識を身に付ける。	校内の廊下を通りながら、気楽に手話の学習をする。
11	⑱教科等の指導では活用していない	校歌や行事等で使用する歌の手話動画	歌詞の内容理解及び手話表現の理解、活用等につなげる。	映像教材はどの学級でも視聴できるように保存しており、各学級や各学部でいつでも可能な時間に練習できるようにしている。
12	⑱教科等の指導では活用していない	絵本や本の紹介	読書週間の取組として、読書習慣の形成や主体的な読書活動の推進を図る。	図書室の一角にコーナーを設け、中・高等部の生徒が中心となって作成した動画を、図書館を利用する幼児児童生徒、保護者、教職員が誰でもいつでも視聴できるようにタブレットを設置し、活用した。